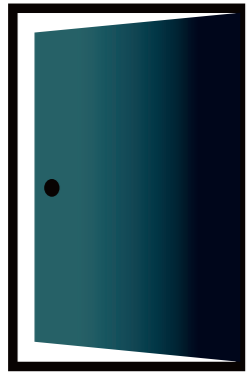


2026

TAKARABUNE 10

出 ↔ 入



TAKARABUNE 10

出 ↔ 入 ↔ 口

2026 3.18^{PM}→3.22^{PM} 埼玉県立近代美術館 一般展示室 I

TAKARABUNE 10「出入口」 記録集

目次		
ごあいさつ	三浦清史 (SMF代表、建築家)	p1
出展記録・出展者メッセージ	各出展者 (下記一覧参照)	p2 ~ 39
TAKARABUNEと夢のシート(エントリーシート)	各出展者 (下記一覧参照)	p40 ~ 43
会場イベント記録	構成: 中村 隆・中村 誠 (SMF運営委員)	p44
会場レイアウト	長野 恒 (SMF運営委員)	p45
ご来場者アンケート集計結果	報告: 中村 誠 (SMF運営委員)	p46 ~ 47
SMF履歴書		p48
あとがき、奥付	三浦清史 (SMF代表、建築家)	p49

TAKARABUNE 10「出入口」 出展者・作品名・掲載ページ一覧

No. 作者名	作品名	掲載ページ
1 伊藤しょうこ	日本画素描 Stray Cat / 一人芝居 (Master Shoko & Margarita)	p2-3、40
2 絵手紙浦和会	つづける つながる つたえる 20 人の絵手紙展	p4-5、40
3 加藤典子	サードドアを探して	p6-7、40
4 シミズフローラルデザインスクール	生命の木	p8-9、40
5 社会芸術・さぎ山支部 野良の藝術	野良の藝術 2025『野良の叫び 分断と結合』報告	p10-11、41
6 SYUTA (三友周太)	The Door Was Open	p12-13、41
7 suzu	並行世界 —parallel world—	p14-15、41
8 出店久夫	夢のごとき風景	p16-17、41
9 電子音響ビープルプロジェクト&東京電機大学「作曲音楽文化研究室」	Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Flux Canvas	p18-19、41
10 田 幸樹枝	ちぎる言葉 ↔ちぎる絵	p20-21、42
11 中村 元	写真 中村 元の世界 ソメイ吉野太夫と千人行列	p22-23、42
12 中村 隆	TAKARABUNE10: 出入口 ビジュアルイメージ	p24-25、42
13 西尾路子	迷路に ようこそ	p26-27、42
14 はたみき	オーバー・ザ・コンフォートゾーン	p28-29、42
15 菱田祐一郎	Wormhole RECORD_T57	p30-31、43
16 藤井 香	創作ダンス《出口 入口》出演: 江積志織、海保文江、佐々木春呼、松元日奈子	p32-33、43
17 舞踏サークル 舞ひ風	舞踏《オオゲツ》2 細田麻央、ノヤ浩一、苺野明、鶴子	p34-35、43
18 みゃうか	夢の入り口と出口	p36-37、43
19 矢花俊樹	巨大アートに挑戦! 『私の夢、私たちの未来』	p38-39、43

ごあいさつ

コロナ禍で中止の年もあり「宝船展 I」から始まったこの展覧会、10 回目の開催になります。十年一昔とは言いますが、もう10 年が過ぎたのかと思えば、成就した成果からはまだまだ10 年、次の10 年にあらためて挑む11 年目です。

SMF は美術、音楽、ダンス、建築、文学など多様な分野のメンバーが交流する自由な集まりであると同時に、身近な場所でアートを楽しみ、支援し、再創造するためのプラットフォームづくりをめざす仲間です。「TAKARABUNE」は実現したいアートプロジェクトを夢として語り、表現し、成果を報告するアンデパンダン形式の展覧会で、だれでも参加できるアートの場づくりを象徴する企ての一つです。

「TAKARABUNE10: 出入口」の記録集、このページはその出入口です。ページを捲りSMFの世界の内へお入り下さい。でも、もしかしたら入ったつもりで出てしまい、出たつもりでも入ったままかもしれません。だって入らなければ出られないのに、入出口ではなく出入口と言うのですから。

三浦清史 (SMF 代表、建築家)

Shoko Ito

Master Shoko & Margarita



伊藤しょうこ一人芝居は現代漫画と古典落語の融合。実話を元に“ロシア人青年ユラとの偶然の出会い”を縦軸に、劇中劇の“愛と自由”の物語【マスターとマルガリータ】と言うロシア文学が横軸の2話が織りなしているお話。ウクライナ戦争の10年前2013年に書いた。7年の長い年月をかけて完成し、今も変化を続けている。ユラには不治の病と秘密があった。テーマは地球。93ヶ国を公演した国際演劇作家、伊藤しょうこ一人十役。私達が“小さな物の中に宇宙を観るとはどういう事か？”ロシア人にはロシア式のドアが日本人には日本式のドアがあり、私達はそれぞれのドア（入口）を開けて中に入っていく、しかしその中の部屋に入ると、、、。

感想とお礼

多種多様な素敵な芸術家の方々と中村様を初め素晴らしいオーガナイザーの方々とこのTAKARABUNE10に参加させて頂き大変名誉です。

また、たくさんの事を学ばせていただきました。また来年も参加させて頂ける事を心より楽しみにしています。

これからも精進して参りますので何卒宜しくお願い致します。

国際演劇家/日本画家/映画監督
伊藤しょうこ

野良猫 - Stray Cats

日本とギリシャのコロナ禍で誕生した野良猫、離れた国の類似した模様の猫の素描。人生初の入口で友人である猫、人生の最後の出口も友人でありたい。





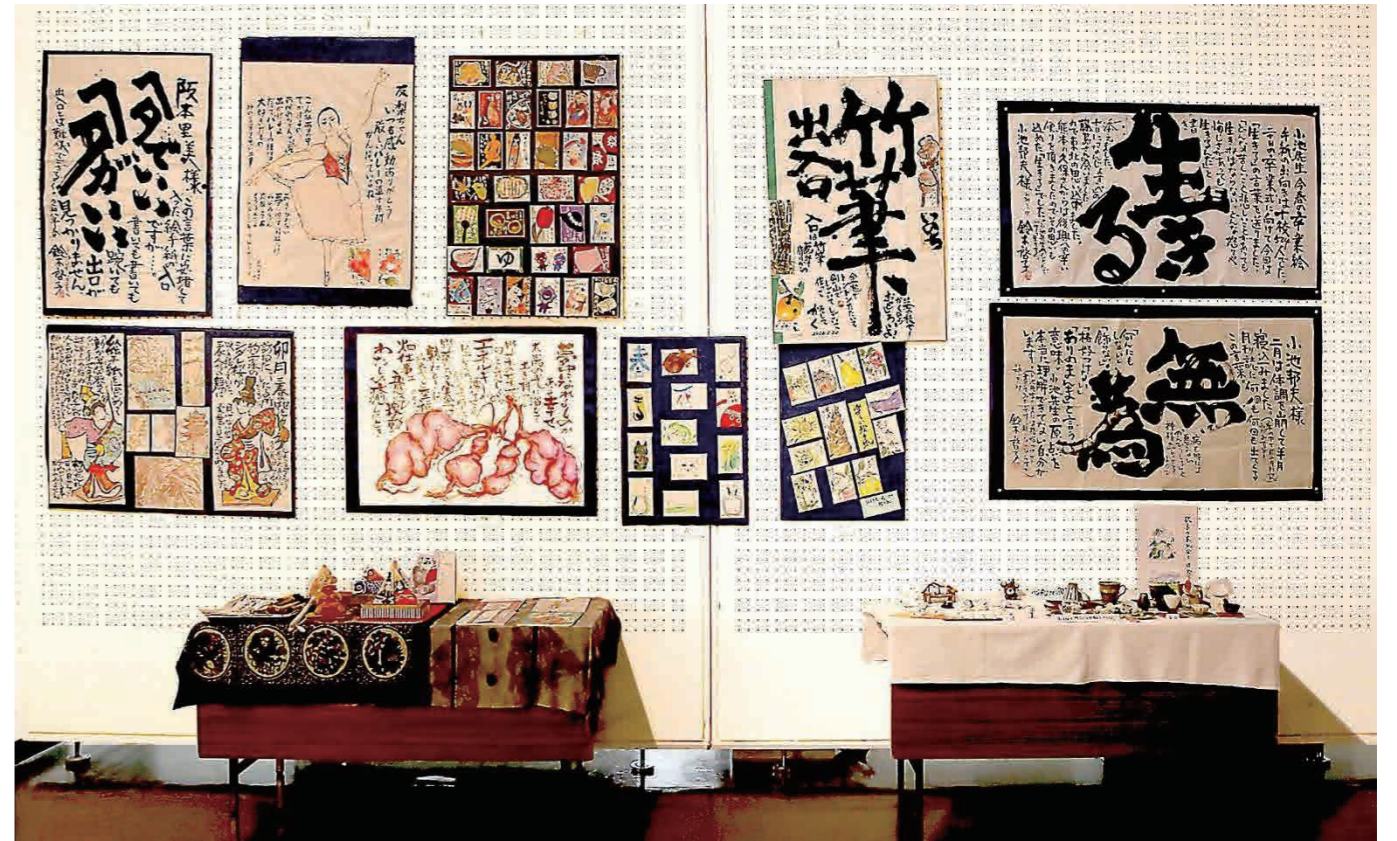
今回は絵手紙浦和会 12 名と絵手紙愛好家 8 名による展示構成です。
全く未知の世界である「絵手紙影絵」に初挑戦しました。特製ライトボックスの調整が難しかった。



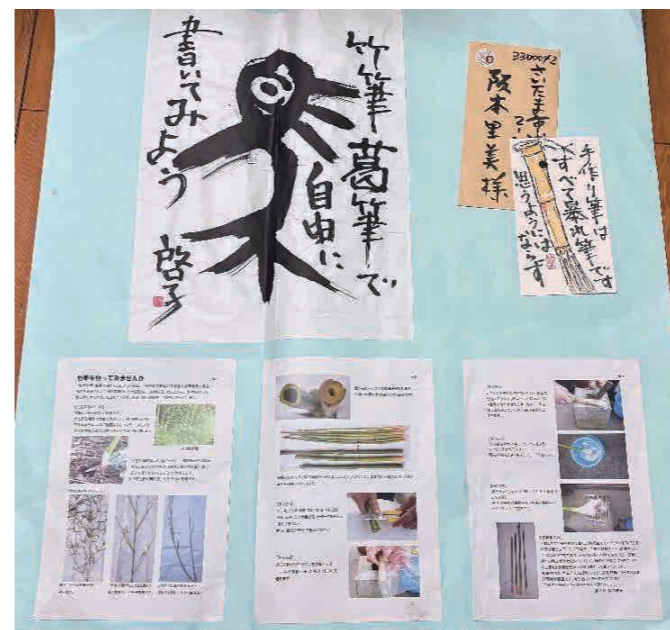
3月18日トークショー:多くの方々にぎわいました。



アイデア絵手紙



大型和紙作品を中心に構成したコーナー。下左は竹筆、鯉のぼり、ひな祭り、パンフレット、右は陶芸品



3月18日 午後2時~4時
絵手紙竹筆体験講座
講師:鈴木啓子さん

最初の30分、竹筆の作り方講座。
参加者78名、すごい人でした。
8席ご用意していただき、交替で
10回の実技を興奮して楽しみ、
4時に終了致しました。
夢中でしたので写真が無く、
左のスケジュール表を添付いたします。

3 加藤典子 《サードドアを探して》

誰もが通ろうとする正面入口である「ファーストドア」や
選ばれた人のための特別な入口「セカンドドア」とは異なり
「サードドア」とは誰も教えてくれないけれど、アイデア次第で
いつでもどこでも開かれる第三のドアのこと。
こども一人一人のアイデアの出入口をこどもと私とで確認し合いながら
それぞれにとって新たな突破口となるような、造形表現としての
「サードドア」を常にさがしている。



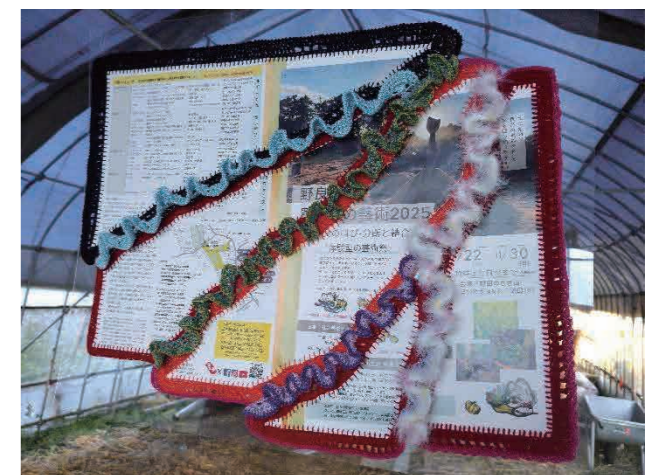
「加藤こどもの造形教室」
2025年度作品 +
小学校チャレンジスクールとの合作



《「加藤こどもの造形教室」2025年度作品+》※主な作品の紹介
(学年は制作時) ○赤松律樹(小5年) 1「自画像」 11「バッグのbag」
14「イケメンゴリラ」 17「ミカンじいさん」 18「ミズの女神」
20「真珠の耳飾りをねだる少女」 21「つばさカーディガン」と「かつら帽子」
○吉野真花(小4年) 2「虹色と丸太」 3「コルネット」 16「お宝を引っこめけ!」
○猪瀬藍(小3年) 4「きのこライト」 13「ミヤコショウビン」 ※奥右 19「ムーミン一家のツリーハウス」
○安藤光希(小5年) 5「レインボウライト」 7ミニ絵本「道と私」 ※手前 9「ネコのマトリョーシカ」
○田中千紘(小4年) 6「ネコハウス(管理人付き)」 8 展示の様子
○兼安岳(小6年) 10「ハノイの塔」 ※パズル ○高野葉奈(小4年) 7ミニ絵本「道と私」 ※奥 12「レインスティック」 13布バッグイラスト「LOVE」
※手前左 ○佐賀愛衣子(小5年) 13「赤いリボン」 ※奥左 布バッグイラスト「スノウマン」 ※手前右 15「森と小鳥」
○22 さいたま市内小学校チャレンジスクール『不思議につながる出口と入口工作』参加者作品と造形教室との合作



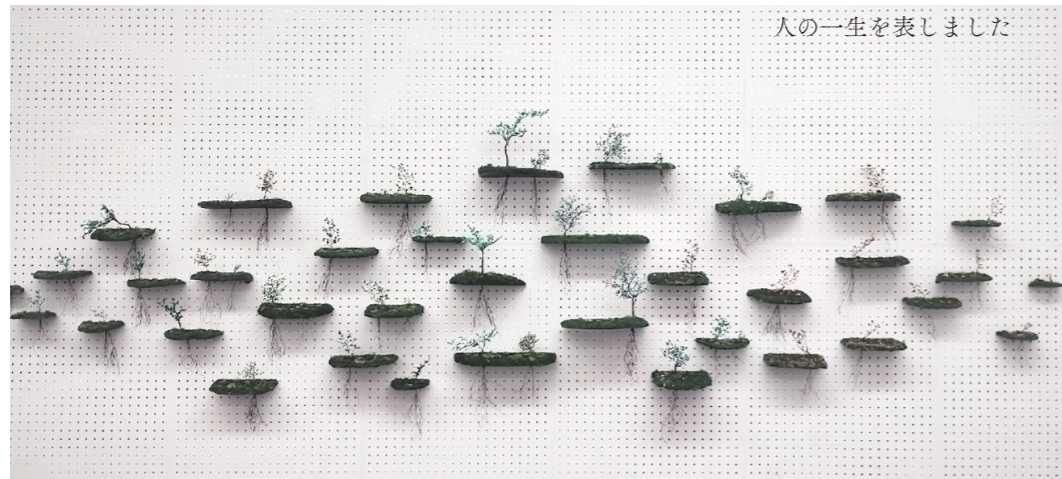
「開かない本」 加藤典子 ※下は内部



「分断と結合 2025」 加藤典子
※「野良の藝術 2025」出品作品

『生命の木』

木が生まれてから成長し
花が咲き
実がなり、紅葉し
かれていくまでで
人の一生を表しました



1. 土地の上に生えているそれぞれの季節の木の各パーツを作成
スチロール、人口モス、和紙の葉、花、実 等で作成



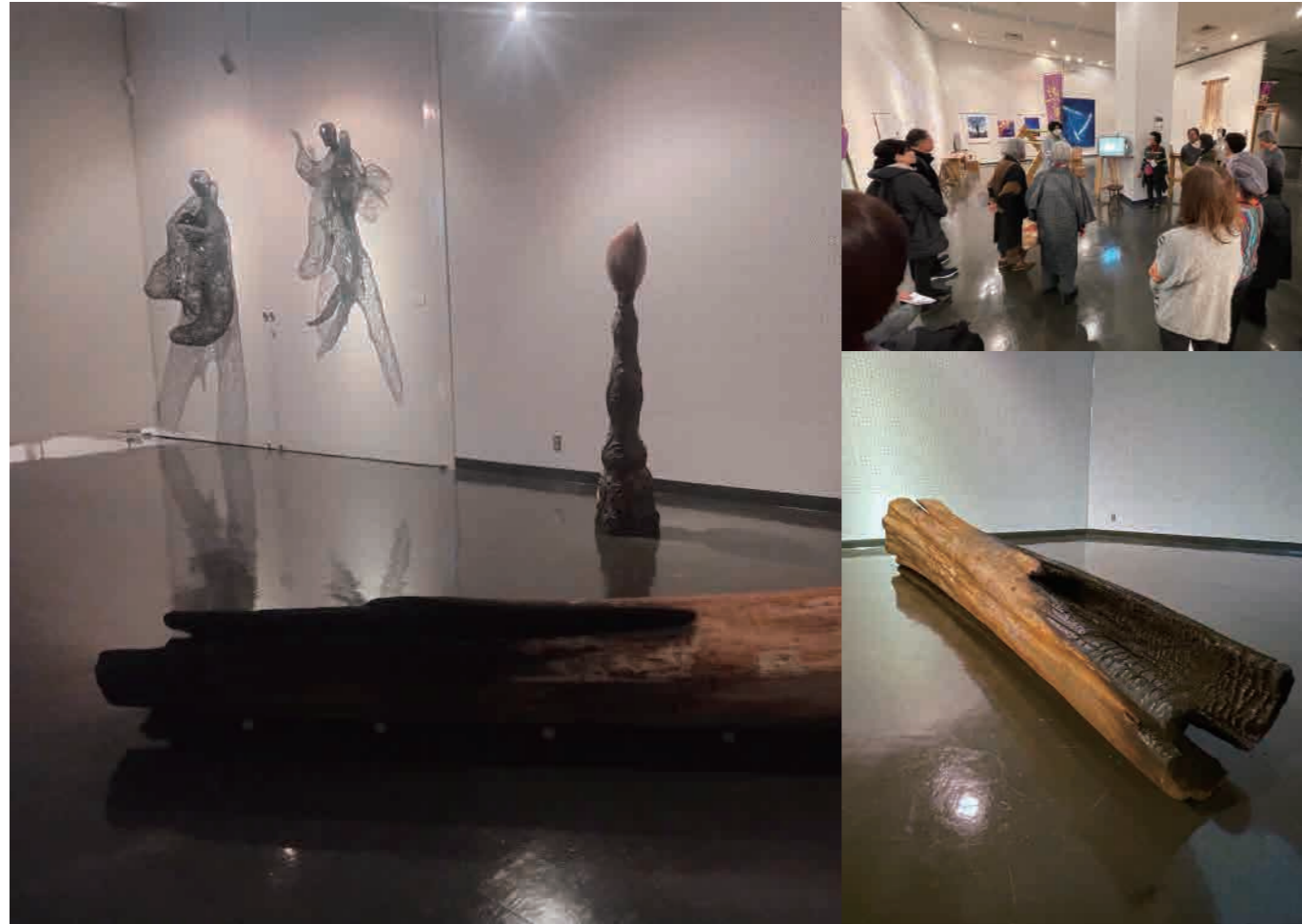
2. 壁に季節の順に差し込む



3. 各パーツに根を表現するワイヤプランツを差し込む



5 社会芸術・さぎ山支部 野良の藝術 《野良の藝術2025『野良の叫び 分断と結合』報告》



造形出品者：石井 国義、石崎 幸治、磯矢 亮介、衛守 和佳子、加藤 典子、萩原 毅、三枝 愛、柳井 嗣雄、タナカ ヒデキ、長谷川 千賀子、広若 剛、吉田 富久一 映像出品者：太田 まさお、本田 慎吾、柳田 永二、ソンちゃん先生



農から始まる創造活動



The Door Was Open

このドアノブは、2025年のロサンゼルス山火事で焼け
た家の残骸だ。

2025年9月にコロナ以降、初めてロサンゼルスに渡
米した際に、過去に展示をしたギャラリーに寄ると、そ
こでは1月の山火事の被災者へ向けたチャリティー展
が開催されていた。

ギャラリーには火災により廃棄された沢山の残骸が集
められていた。この廃棄物を使ってアーティストが作品
を創るものだ。自分も何か作品にしようと玄関のドア
ノブを持ち帰った。なぜなら、玄関のドアは、外の世界と
家の中の境界であり、ドアの鍵は家族や財産を守り、
安心できる空間の象徴だからだ。

火事により、家は焼け、ドアはその力を失い、鉄の塊
となってしまった。

「TAKARABUNE10 出入口」とシンクロしたことから、
持ち帰ったドアノブを作品にした。

焼け残ったドアノブを中心に光と陰で構成し、失われ
たものかたの姿を表現した。

友人のなかには、自宅、スタジオ、過去に制作した作
品まで焼失した人もいる。意気消沈しているだろうと
心配したが、再会した彼らは制作を続けていた。

これは仲間たちへの尊敬とエールを込めたものである。



＜並行世界 — parallel world —＞

「別世界」への入口は
どこにでもある。

いつの間にか
別の世界に入り込み、

そして
いつの間にか
元の世界へ戻って来ている。

でも、もしかしたら……
あなたのいる世界は、
さっきまでいた世界とは
違う世界かもしれない。

ある日、美術館に行った。

そこには、
様々な絵。
それを一通り見てまわり、
最初の入り口のあたりへ戻る。

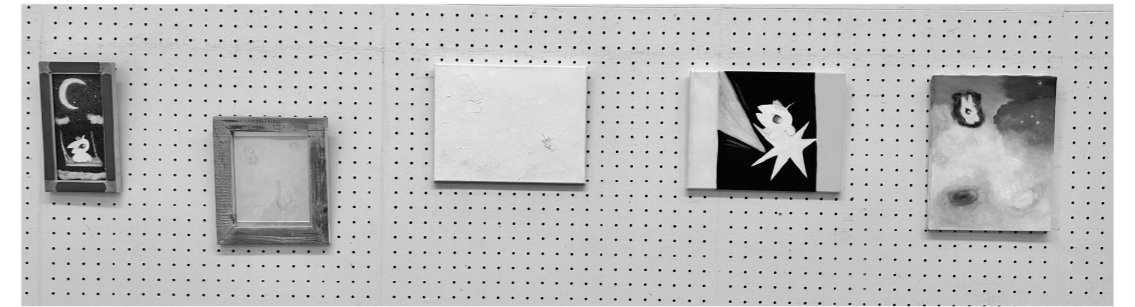
ふと視線を感じて振り返る。

そこには一枚の絵。
だけど、違和感が。
最初に見た時と、何かが違う。
絵の中の風景が、
少し違う気がした。

わからないまま
見つめ続けていると——
閉館時間。
急かされるように美術館を後にする。

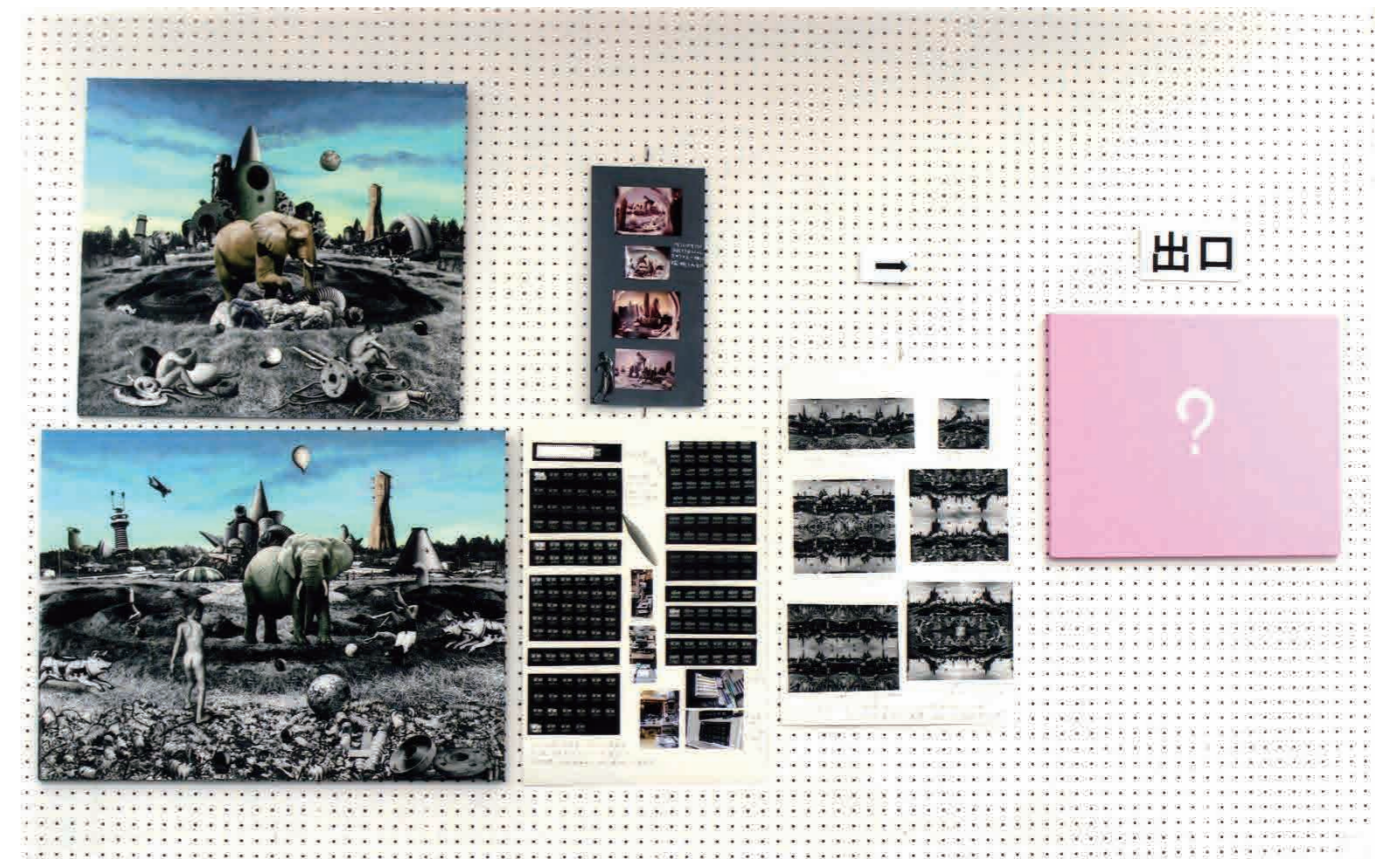
もやもやを抱えたまま、
外へ出る。

立ち止まり、
振り返った場所には
美術館はなかった。
そこには
美術館はなかった。

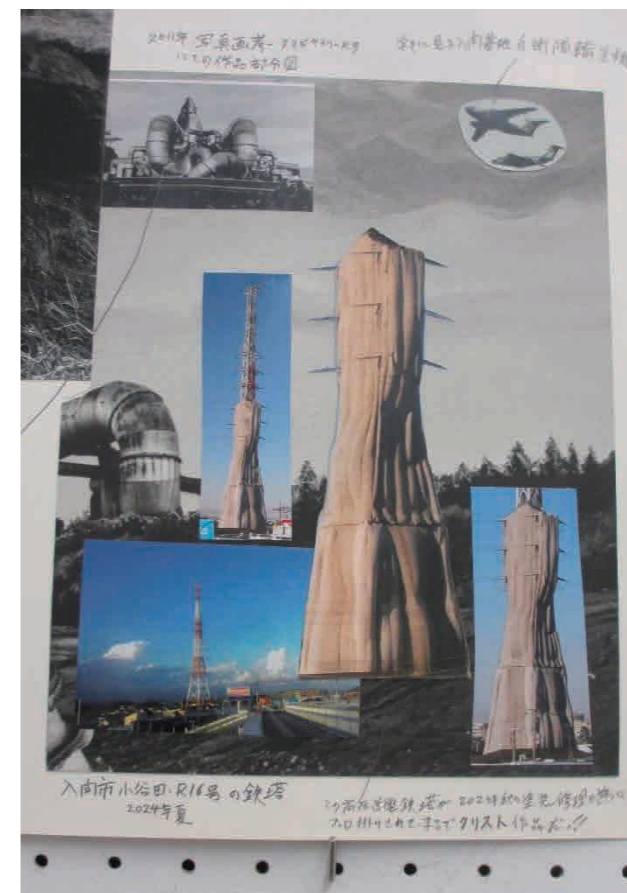


「別世界」は、
その場に 現れる。





フォトコラージュ原図 ⇒ ネガベタ焼 ⇒ ゼラチンシルバープリント ⇒ 現在進行中の画面
 2025年 2026年 2026年 2027年完成予定



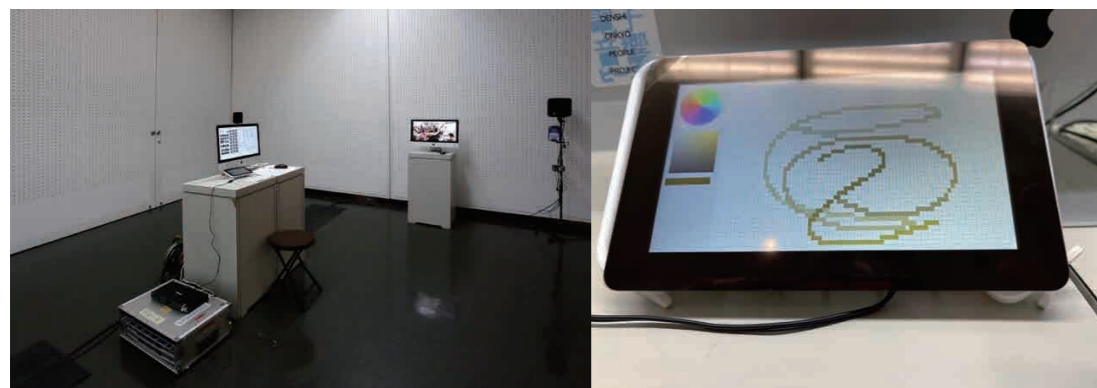
1983年のモノクロプリントより2024年野良の藝術さぎ山会場ダイダラボッチ地面の写真カットまで、私が出会ったイメージが記憶の中で積み重なり、コラージュ原図は出来上がっております。

原図をレンズ玉を使って再撮影する方法にてプレ流れネガ35mmが出現します。これをプリントすることにより生まれいずる最終画像を求めるのは大変に私的でアナログな技法なのです。

崩壊感覚に満ちる風景が希望の持てるピンク色に輝きますように !!

9 電子音響ピープルプロジェクト+東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」 《Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Flux Canvas》

電子音響ピープルプロジェクト & 東京電機大学「作曲音楽文化研究室」 Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Musicbox 電子音響ピープルプロジェクトは、2022 年秋から再始動し、2023~2025 年の 3 年間で本格的な活動を展開しています。2023 年には、BankART Station (9 月 30 日・10 月 1 日) およびゲーテ・インスティテュート東京 (10 月 28 日・29 日) でワークショップを開催しました。2024 年には 6~8 月にスウェーデン・ドイツ・フランスでもワークショップを行い、9 月には ZKM (カールスルーエ・メディアアートセンター) でライブと公演を実施しました。さらに同年 10 月、ゲーテ・インスティテュート東京の「電子音響ピープルプロジェクト 2023-2025 Special & Spatial ライブ」において、ドイツから、ルドガー・ブリュンマー、石井紘美、ベンジャミン・ミラーの各氏を招き、同氏による協働作品の日本初演を含む 2023 年以降の全協働制作作品を上演しました。今回、TAKARABUNE に展示した「Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Flux Canvas」は、参加者の完成作品と集合写真をもとに構成したポートレート動画によるサウンド & ビジュアルインスタレーションと研究室の生徒である山根が制作したインタラクティブ作品を組み合わせた作品です。電子音響ピープルプロジェクトが目指す、緩やかで可視化しにくいコミュニティを視覚的・聴覚的に表現しました。



電子音響ピープルプロジェクト 2023-2025@ゲーテ・インスティテュート東京
2025 年

11.8 sat シンポジウム + 電子音響ピープル 2025 共同制作作品初演!

11.9 sun 電子音響ピープル 2023-2024 共同制作作品の再演・未来のアーティスト 2025 作品初演

11.4 tue-9 sun サウンドインスタレーション展示

8.29 sat ワークショップ with 生形三郎、仲井朋子、松村誠一郎、柴山拓郎、**電子音響ピープル**：井上将来、高地寛、菅野健一、Yama、笠木日南子、Lin、太田あゆみ、藤重なこ、柳原久乃、松村誠一郎 with Ikk、大沼康子、渡辺政弥、カズ、足立雅子



関連企画 ワークショップ@風の寺子屋 (2024.11.20, 12.25)、BankART Life 7 への参加 @BankART Station ・サウンドインスタレーション展示 (2024.3.14-6.9) ・サウンドスケープ・サウンドモニタージュワークショップ (2024.4.21) ・ラウンジライブ (2024.5.26) ワークショップ ・ワークショップ@ストックホルム舞台芸術美術館 (2024.6.16) ・ワークショップ@ZKM(カールスルーエメディアアートセンター) (2024.7.20) ・ワークショップ@Festival Futura (2024.8.21-22) ドイツ公演@ZKM (2024.9.13) 東京公演@ゲーテインスティテュート東京 ・Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Music Box (2024.10.22-28) ・シンポジウム (2024.10.25) ・Spacial&Spatial Live (2024.10.26-27)、ワークショップ@BankART Station / with 高野大夢、由雄正恒、仲井朋子、渡邊愛、柴山拓郎 **電子音響ピープル**：小田浩市、桜田しょうき、柴山あかり、柴山るり、時得里彩、松 尚文、武石みどり、伊藤芳雄、大 矢祐嗣、吉川信雄、遠藤りな、阿部尊美、吉野香子、吉野翼、邱玉芬、みな、小田雅昭、小田裕子、桜田みちよ、柴山真人、大村倫太郎、岡田怜子、染谷怜奈、染谷優大、神保玲子、高田広美、関根麻郎、大澤貴一、長谷川僚也、キョウコウ、柴山祥子、平賀りあ、塚本信昭、柴山晴、大村英史、大村美保、岡田あゆみ **飛び入り応援ピープル**：濱野峻行、村田 早苗、滝沢葉子、安田亜希子 **サポートピープル**：若林拓海、小林慧悟、渡辺亮太、大野勇人、高木空、松本実樹、本多 慎吾、天光快晴、松本実樹、中村陽、本多慎吾、鈴木怜奈、大野勇人 **BankART 1929 の皆さん** ワークショップ@ゲーテインスティテュート東京 / with 高野大夢、由雄正恒、新井聡真、大野茉莉、柴山拓郎 **電子音響ピープル**：千原世+千原航、都賀城太郎、鈴木悠弘、広沢純子、邱玉芬、Tetsuto Ozawa、イゼン、Antonia Britt、田中栄索、増田涼香、増田澄恵、凡、kazu、外川麻未、福江一起、加藤美実、Taku、伏見香蓮、Takuya Shinkado、Anna Shinkado、長岡律子、高橋乃恵実、Sarah Lee、高橋達二、Raiden Gunnarsson、Nomura Karin Gunnarsson Nomura **サポートピープル**：山根 吾朗、菅谷凌、天野大介、岩橋未有、都留尚歩、増淵長慶、中村陽、松本恭祐、早田淳平、本 多慎吾、松本実樹、小松匠、西野俊、中窪涼介、天光快晴、鈴木怜奈、真中大徳、五十嵐万裕、柿崎瑞貴 **Goethe Institute Tokyo の皆さん** ワークショップ@BankART Life 7 / with 柴山拓郎 **電子音響ピープル**：松岡尚史、榎村和美、穴澤宏美、水 野谷帆風、神保玲子、塚本信昭、堀本響、桑原健太郎 ワークショップ@スウェーデン舞台芸術美術館 / with アンドレ・ホルザブフェル、デレク・ホルツァー、ヘンリック・フリスク **電子音響ピープル**：エリック・ティヴェニアス、イナ・フ リード・フライデル、カリズ・ノードルフ、ルオクシ・ガオ ワークショップ@ZKM with / ルドガー・ブリュンマー、石井紘美、ベンジャミン・ミラー **電子音響ピープル**：Katsu, Mia, Daichi, クリスマン、ヨーヨー、有馬桃、クハレク未知、リン、ポステット育三郎、ポステット保奈美 ワークショップ @Festival Futura / with ナタナエル・ラボワソン、アニエス・ボワソン、ヴァンサン・ロブフ、成田和子 **電子音響ピープル**：ヴィルジーニ・ルナル、ジャヴィエ・オルト、パオロ・カスティリーニ、クリス・シャネット、樋口 浩子、ジュリー・ゲルニユ (jg.ch-j)、ペルナル・ルノー、デルフィーネ・ドラ、C3 S R、藤本芳樹 **主催**：電子音響ピープルプロジェクト 2023-2025 実行委員会 **協力**：BankART1929、ゲーテインスティテュート東京、ZKM | Zentrum für Kunst und Medien Karlsruhe **助成**：かけはし財団、科学研費基盤研究(C)「参加型プロジェクトアートとしての電子音響音楽の共創的実践」、東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」 **後援**：先端芸術音楽創作学会、Saitama Muse Forum (SMF)、日本電子音楽協会 (JSEM)、SuperDeluxe **運営**：東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系「作曲・音楽文化研究室」 **デザイン**：アームズ





ちぎる絵

ちぎり絵の入口として

田 幸樹枝 yukie den

の火の
蠍
星で、
の雨は
天然 水は救いで、救いは鴨というよりゲリラ雨で、リラ
オーマイ☆カモフラッシュ
鴨がにわたずみに飛び込んで広げた羽根にいぼむしり飛び込む
いぼむしりは鎌をふり上げ死を宣告した(羽広げるその鴨に
オーマイ☆カモフラッシュ

ちぎる詩「にわたずみ」(抜粋) 田 幸樹枝

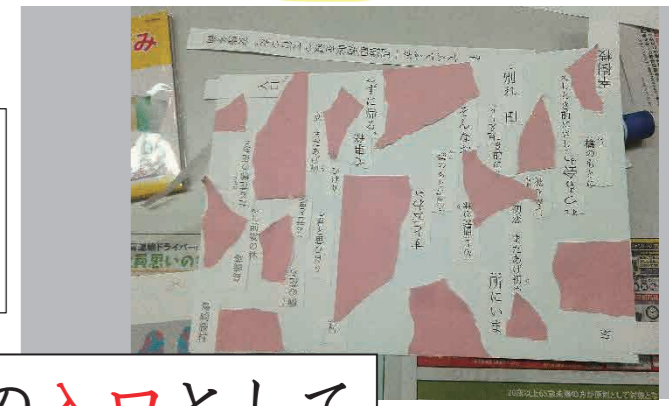
鏡面世 界が入り口である夕ぐれのにわたずみに足を掛け
野 火を放つ わが三毛 猫はキャッシ ユレスで ある
にんげんの姿をし たあなたが向こうの國で微笑んでいて
地漚青の皮膜に蒼い空わいて白雲ニョッキニョッキしている
給餌ストローはマンホールの蓋を破壊してクレッシェンド
のピグテイルを踏み絵していてマンボウは帳簿を作成している
野に放たれた自然火はキャッシ ユフロードである
にわたずみにずぶずぶと足は消火剤とともに入金されていく
鏡面世 界の3号棟がそのマイン再生を叫んでいて
あなたにはサンダルでわたくしは靴よとしかし、
洋ナシが逆立ちをし ようとしているのがアダジオな鴨だ

ちぎるの謎



etc.

パフォーマンス参加作品：吉田富久ーさん



詩の入口として

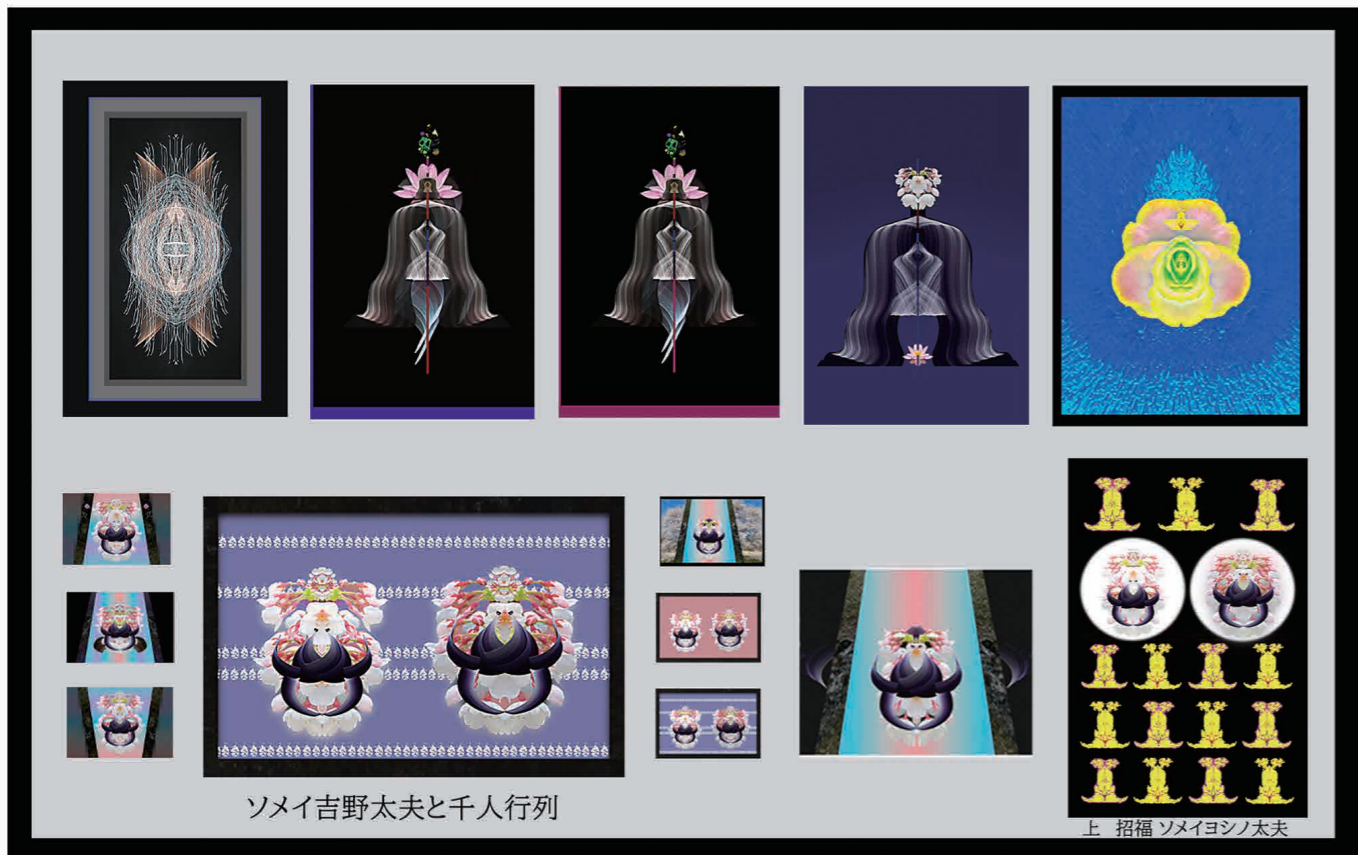


ちぎる詩

TAKARABUNE10

TAKARABUNE10 出入口

写真 中村元の世界



「ソメイ吉野太夫と千人行列 制作の手引き」

- NO1 画像 あるイルミネーションの色が気に入り撮らせて頂いた。
PCに取り込み気に入った色を切抜き1ファイルを作る(2の画像)に
- NO2画像 画像加工ソフトの消しゴムで処理。残った画像で「気に入った」処を集めて、横線状に並べ制作(NO3)画像(千人行列)「背景画像」に。
- NO4 画像 幹に咲いたソメイヨシノの花
- NO5 画像 NO4の画像を適当な位置でトリミングする。
- NO6 画像 NO5の画像を消しゴムで処理 し整えNO3の画像上に。
- NO7 画像 打ち上げ花火をスイングショットで撮影。
- NO8 画像 NO7の 画像 を消しゴムで処理
残った画像の形を整えてNO6の画像と合わせて
NO3の画像に乗せて完成。

GEN GEN GEN

エントリーシート

入口
カメラで撮影した画像をPCに取り込む。
画像加工ソフトのなかに画像をととのえる消しゴムがある。
PCフォルダにたまった画像データを整理しよう。
時に不要になったデータを消し去る前に、
消しゴムで消すのが「私」流の作品を作る入口の一つだ

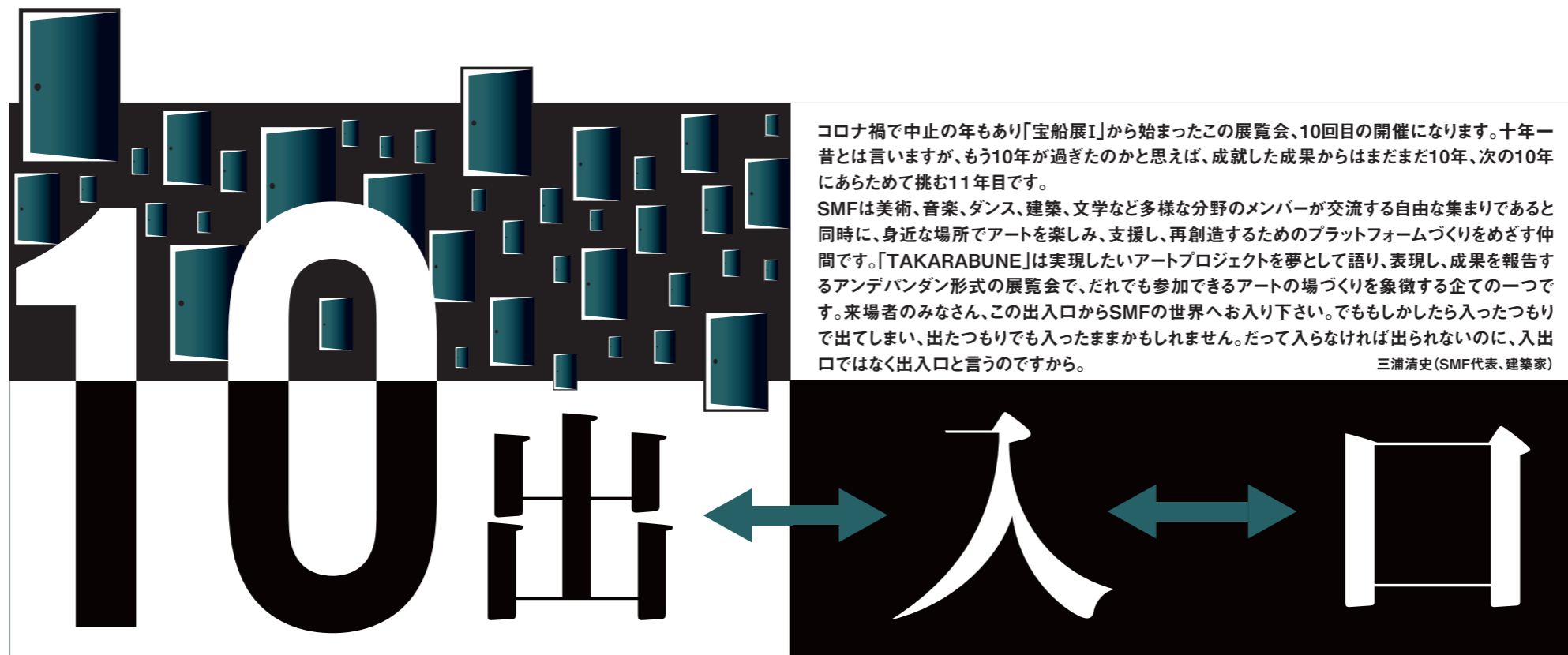
出口
どう消すかはあなた次第。
そう残像のなかに夢があるのだ。
入口と出口をいったりきたり。
残った画像を背景に使おう。
今回作った作品の一つに。

「ソメイ吉野太夫と千人行列」
「招福 ソメイヨシノ太夫」を出力したのでご覧いただきたい。

作品にまつわるエピソード など
今回は表題作に加え干支作品も出品しました。
《2026年 丙午「左馬」》もその一つ。今年の干支は60年に一回の丙午です。毎年干支の作品を制作しますが今回は何故かイメージは(馬)が粋とつながり昔聞いた左馬へと。
昭和61年発行の鈴木力氏の江戸文字全集より一字引用させて頂きPCで加工して色数を抑えて粋さを・・・できたかな?

左馬

2026
令和八年



今年で10年目のTAKARABUNE

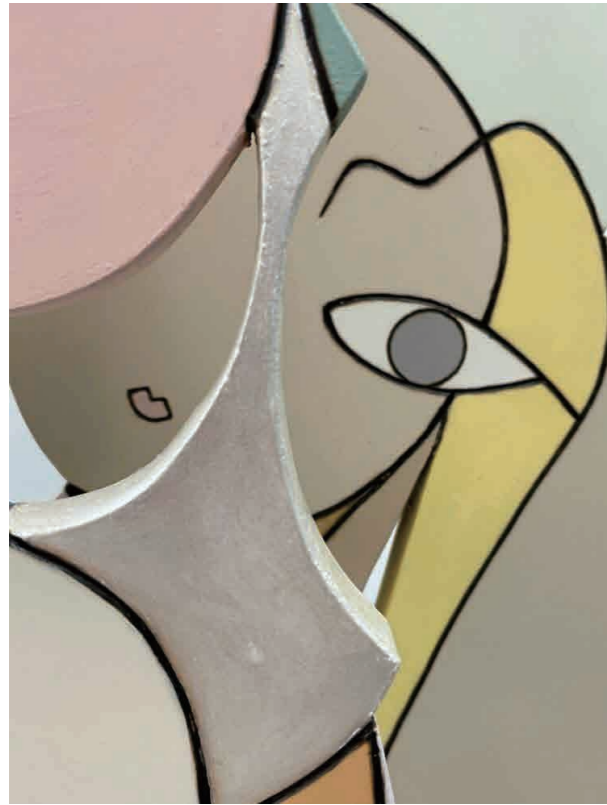
出↔入↔口 という不思議なテーマのキービジュアルは ドア

開いているのか、閉まりかけているのか？

TAKARABUNEは出入り自由な無数の創造のドア



13 西尾路子 《迷路に ようこそ》



路

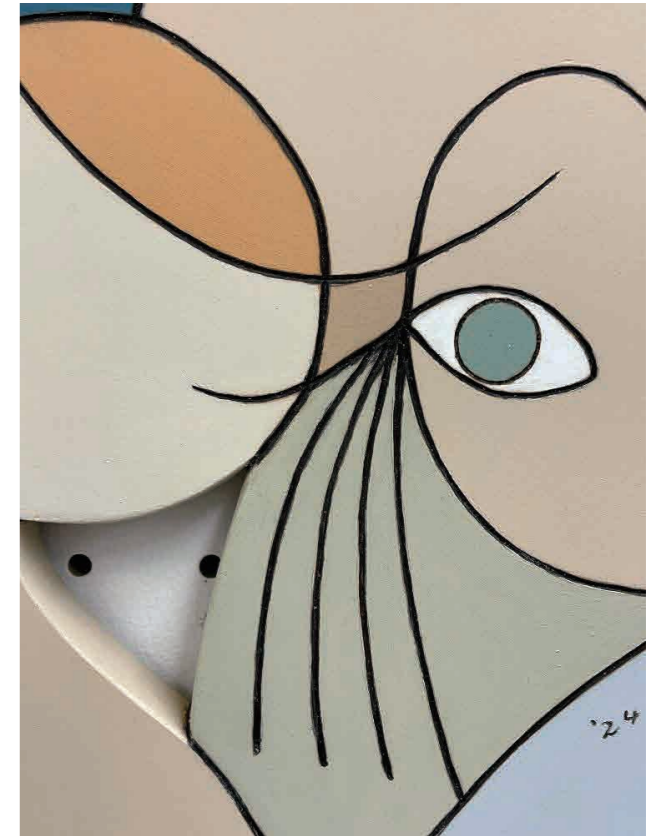
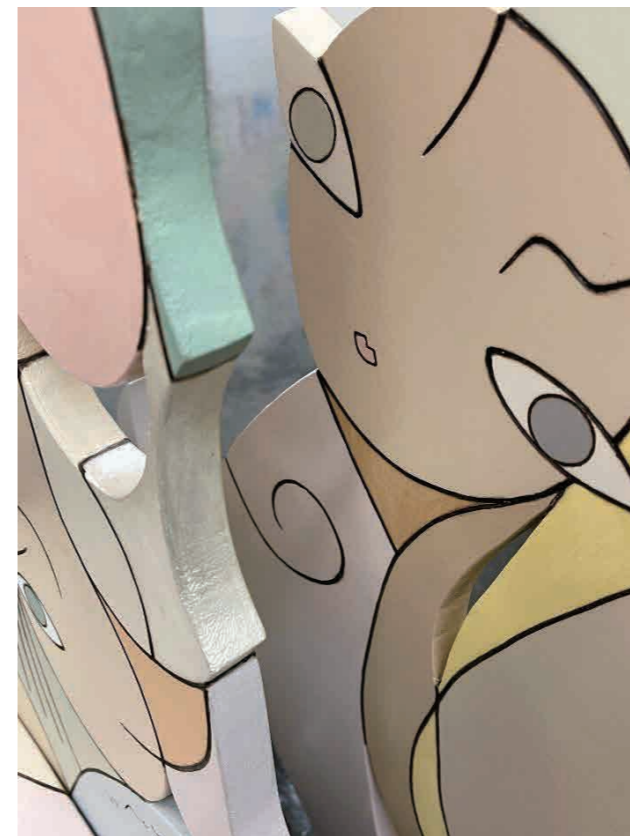


Photo: Gen Nakamura

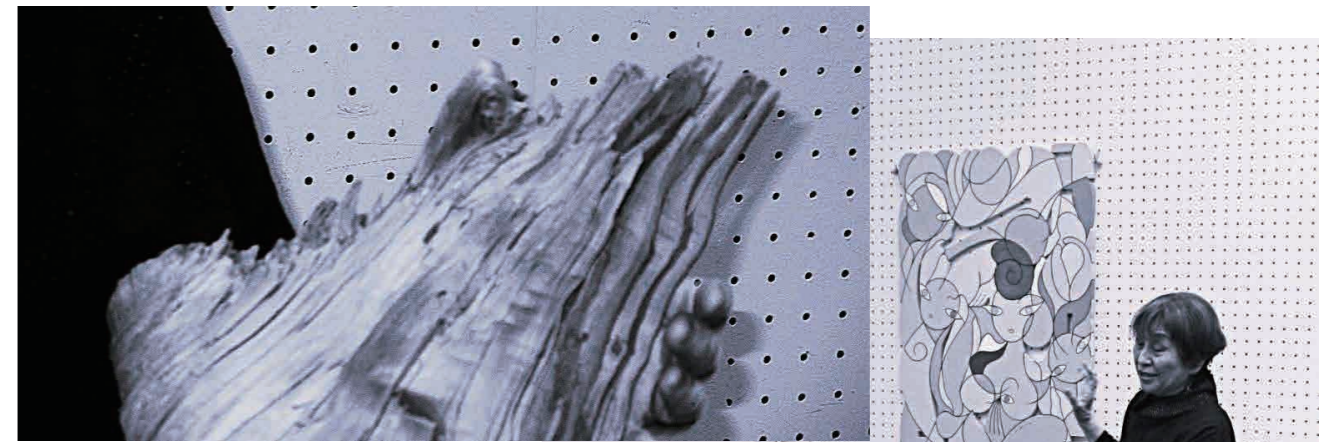


Photo: Makoto Nakamura

出逢う



14 はたみき 《オーバー・ザ・コンフォートゾーン》

作品名： オーバー・ザ・コンフォートゾーン Over the COMFORT ZONE
作者名： はたみき Miki HATA
制作年： 2026年 2026
制作日数： 1年と1日 For 1year+1day
材質・技法： アルミシート、サンキャッチャー、風船、布、段ボール
Aluminum sheet, Sun catcher, Balloon, Cloth, Cardboard

「出入口」と出展作品の関わり：

出入口:出たり入ったりできる門、扉、ドア。今は見えていない扉（選択肢）は、まだまだ沢山あるはず。さあ、ドアを開けて行こう。未来を決めるのは、いつだって自分だ。あなたと未来を変える出入口…。あなたも越えて“見”ませんか？

DOORWAY : A gate, door that you can enter or leave. There must be many more doors (options) that you can not see right now. Now, let's open the door. The future is always yours to decide. A doorway that will change you and the future. Why do not you try exceeding it?

作品制作にまつわるエピソードなど：

コンフォートゾーン:ストレスや不安を感じず、安心して過ごせる「個人にとって居心地の良い安全領域」。あなたの“当たり前”や、“慣れ親しんだ普通”を1つだけでも超えてみませんか？新しい選択を試してみませんか？作品を通して、コンフォートゾーンをオーバーした時の感覚を少しでも体験してもらえたら嬉しいです。

COMFORT ZONE: “A comfortable and safe area for individuals” where they can spend time without stress or anxiety. Would you like to go beyond your comfort zone, even just one of your "normal" or "familiar normal"? Would you like to make a new choice? Through my art work, I would be happy if you could experience the feeling of going beyond your comfort zone even a little.

曲がったことのない角、通ったことのない道、その先にこそ、ずっと探し求めていた景色が見えるかもしれません。あなたと未来を変える出入口…。あなたも越えて“見”ませんか？アウェイに、一歩進んでみる。自分の枠（コンフォートゾーン）を超えよう。異次元への挑戦。未知へ挑み続ける。いつもと違う選択肢を選ぶことで、あなたの人生の角度が1°C（一度）、変わります。人生は、面白い。 *TAKARABUNE 展"も私にとっては毎回、エキサイティングなチャレンジです。

At a corner where I have never turned. At the end of a road I have never passed, I may be able to see the scenery I have been looking for. A doorway that will change you and the future. Why do not you try exceeding it? I will take a step AWAY. Let's go beyond your COMFORT ZONE. Take on the challenges of another dimension. Keep challenging the unknown. By choosing unusual options, you change the angle of your life by 1°C (one degrees). Life is interesting.

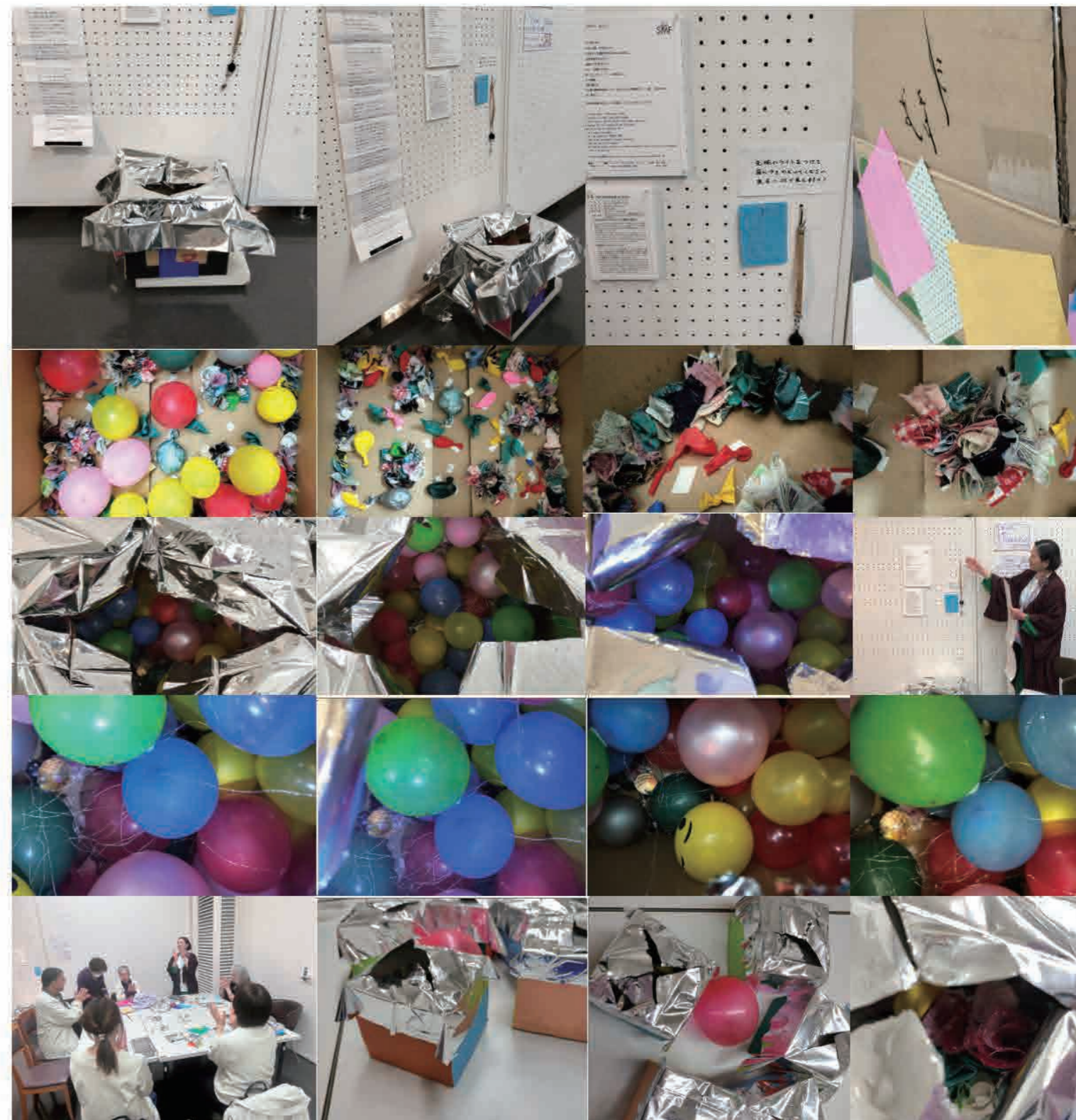
※"The TAKARABUNE exhibition" is evrytime an exciting challenge for me.

オーバー・ザ・コンフォートゾーン OVER THE COMFORT ZONE はたみき MIKI HATA



小さな選択の積み重ねで人生は、自分で変えられるはず。箱の中に入るのも、箱の中から出るのもオーバー・ザ・コンフォートゾーン。

箱の中身（風船、馴染みのハギレ布の花々）は、コンフォートゾーンの可視化です。サンキャッチャーは、あなたがコンフォートゾーンを抜けた先に出会う新しい経験（輝く宝物）をイメージしています。

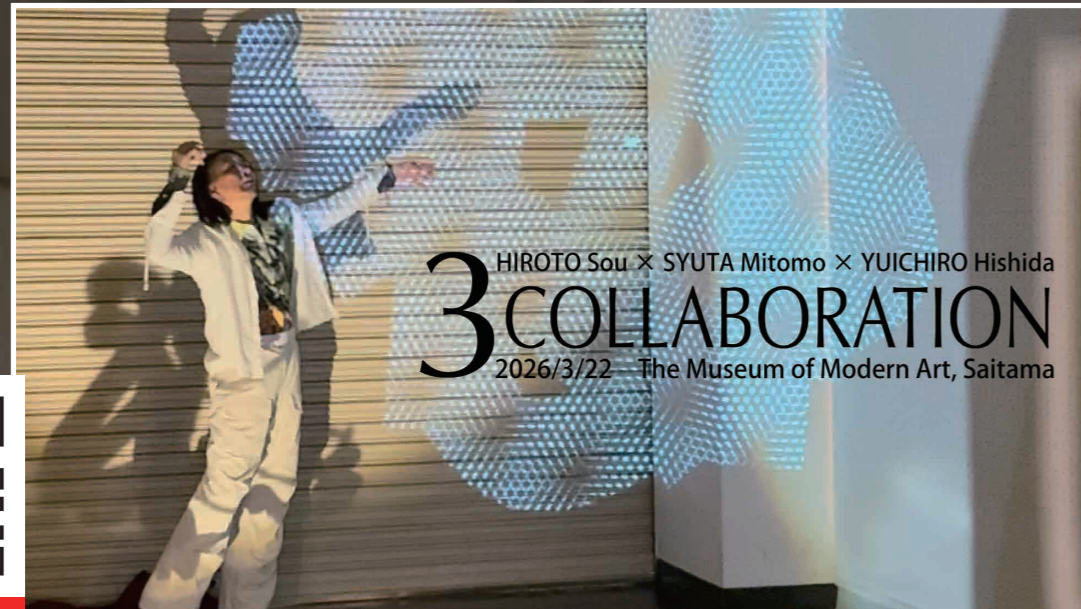


「新しい自分を少しずつたしていきいつの間にか人生が大きく変わります」

Performance Art

デジタルアートを自由に持ち歩くライブ

今回は5日間のパフォーマンスアートライブと3つのコラボレーションライブが実現しました



HIROTO Sou × SYUTA Mitomo × YUICHIRO Hishida
3 COLLABORATION
2026/3/22 The Museum of Modern Art, Saitama



記録 YouTube

蒼浩人さん × SYUTA さんとのコラボレーション



COLLABORATION
Gen NAKAMURA × Yuichiro HISHIDA
2026/03/21 TAKARABUNE 10 Exhibition
The Museum of Modern Art, Saitama

寿獅子舞
江戸里神楽



記録 YouTube

中村元さんとのコラボレーション



HIROTO Sou × SWAKAKO Emori × chika × YUICHIRO Hishida
4 COLLABORATION
2026/3/22 The Museum of Modern Art, Saitama



記録 YouTube

蒼浩人さん × 衛守和佳子さん × chika さんとのコラボ



記録 YouTube

5日間埼玉県立近代美術館で
パフォーマンスアートライブ

パフォーマンスアート Wormhole RECORD_T57
「時」をテーマにしたデジタル作品を制作する中で、「出入口」という言葉を聞いた瞬間、奥行きのある空間が思い浮かび、ワープ（時空移動）のような映像が自然に想起されました。光よりも速く時空を移動するための「出入口」へ、ご案内いたします。



出口|入口… 未知 みち みち における観客大移動の様子
 (パフォーマンス中の皆様の暖かい眼差しとご協力に感謝いたします)



『出入口』という言葉に魅力を感じ、ポスターデザインに心ときめき、ユニットウルスさんの「ドアを作れるからコラボしようよ」のお誘いにワクワクは頂点に達し、「出入口」について考え始めました。

出口も入口も、その先には、未知をばら撒いたような世界が広がっていて、その中を生きる人々の様子をダンスで表現してみました。

17 舞踏サークル 舞ひ風 《舞踏《オオゲツ》》



舞踏集団／舞ひ風 「オオゲツ」

タイトルの「オオゲツ」は古事記のオオゲツヒメが由来です。野良の藝術 2025 で踊らせていただいた「五穀の起源」を、TAKARABUNE 展に向けてリメイクした作品です。 2026.3.22 埼玉県立近代美術館



「五穀の起源」 2025.11.30

野良の藝術 2025 野田のさぎ山

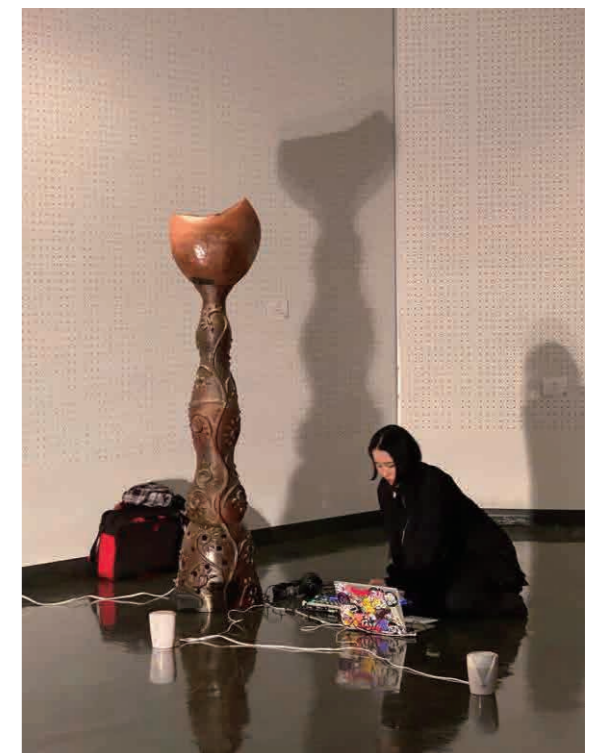
舞踏／

オオゲツヒメ 細田麻央
 カンムスビ ノトヤ浩一
 ウズメ 苅野明

DJ／鶴子

構成／奥山孜

写真／佐藤ユカ





今回のテーマは「TAKARABUNE10 出入口」ということで10回目を迎えたという意味もあります。

みょうかもこの宝船展に参加して10回目となりました。

1回目に参加した時の緊張や不安は、今となっては懐かしい思い出です。

その時にはまだ和紙を使った立体造形を制作しておらず、アイデアのみを提出しました。そのアイデアを基に制作したブランコの作品は虹色の鎖と座る場所を雲形にして仕上げました。素材は和紙と紙のみで制作しています。

一緒に展示したこれらの星はみょうかの願いを叶えてきた流れ星たちです。星に願いをかけた時が「入り口」叶った時が「出口」と考えて10個の流れたあとの星たちを展示することにしました。また次に流れるために今は休憩をしています。



TAKARABUNE10 巨大アートに挑戦!『私の夢、私たちの未来』



授業者:矢花 俊樹 制作:藤市立中央東小学校4年生&ひまわり学級:81名 協力:藤市美術連盟

「子供は誰でも芸術家だ。問題は、大人になっても芸術家でいられるかどうかだ。」
私が好きな、ピカソの言葉である。

子供は生まれた瞬間にアートの入口をくぐり、アートの中にいるのだろう。しかし、子供たちは学校で図工・美術教育を受けているにもかかわらず、残念ながら早い段階でアートの出入口から出て行ってしまふ子供が多いのではないだろうか。

図工の授業はアートの出入口から出てしまった子供にとっての“アートの入口”(再入場)であり、アートの中にいる子供にとっては決して出口となつてはならないものである。そんな授業を私はしたい。



料理うまくなりたい。英語がぺらぺらになりたい。たくさんの人を笑顔にできる絵をかきたい。お花屋さんになりたい。うちゅうひこうしになりたい。キックボクシングでベストをつくす。空手でゆうしょうしたい。電車の運転しゅになりたい。小説家になりたい。サッカーでたくさんシュートをうちたい。大工しょくじんになる。すべてのソフトをやりたい。ラーメン。にゃんこパンゆる。鉱石コレクターになりたい!!東京大学入学おめでとう。相手をみとめられる水泳選手。日本一上手なしょうぎの棋士になりたい。キャンプカーでりょこうにいきたい。かんごしになりたい。ペットショップの人になりたい。世界中の鉱石を集める。



植物のたくさんあるカフェではたらきたい。色んな生き物をかいたい。楽しいゲームを作りたい。海のうつくしさでかぞくをしあわせにしたい。花とちょうのお花屋さん。ベイベレードであそびまくる。人気のYou-Tuberになりたい。イラストレーターになりたい。人気のネコカフェを開きたい。スイッチ2を72時間ずっとやりたい。カフェの店員。お花屋さん。おばけ屋さん。ケーキ屋さん。おいしいデザートが作れるパティシエになりたい。わたしイラストレーターになる。ハワイにいきたい。日本一のサッカーせん手になりたい。うちゅうは家をたてる場所だ。そうこうしゅそろったプロ野球せん手。集中集中ぜったい1点決めたい!!いい中学に受かりたい。めざせやきゅうせんしゅ。ねこかいたい。ネコがかいたい。日本が目指すバスケ。新しいパジャマをきたい。日本一上手なサッカーせん手になりたい。日本一のスリーポイントシューターになりたい。犬を何ひきもかいたい。ペットショップやさんになりたい。お花屋さんになりたい。イラストレーターになりたい。外交官になりたい。

TAKARABUNE10：出入口

SMF

■ 扉「出るト入る」

行きは yoko i 帰りは 帰る

去るの次から見上げた夕陽は
スベスベしたものが 遠くまで 輝くが
その 遠くまで 輝くも 遠く 遠くまで
輝く 輝く 輝く も もんが ミヤンが
きみが 輝くまで 見上げる 夜空

行きは yoko i 帰りは 帰る

宇宙の扉が はじまるよ だね ヨータンナ ナリア

よーこそ 月曜 曜 曜のり 帰ります

水戸 ジーン が 宇宙船 に 人間 になる
ツタ ルメイ が 出口 で 輝く
輝く 輝く 輝く いま せんか?
出口 が 入る 自由 になる

QRコード

ちぎる言葉 ⇄ 文芸/絵画 ⇄ ちぎる絵

言葉と絵の出入口を比較しませう

種類： 作品シート 題名： ちぎる言葉 ⇄ ちぎる絵 氏名： 田 幸樹枝 (でんゆきえ)

TAKARABUNE10：出入口

SMF

入口
カメラで撮影した画像をPCに取り込む。
画像加工ソフトの中に画像をととのえる消しゴムがある。
PCフォルダにたまった画像データを整理しよう。
時に不要になったデータを消去する前に、
消しゴムで消すのが「私」流の作品を作る入り口の一つだ。

出口
どう消すかはあなた次第。
そう残像のなかに夢があるのだ。
入口と出口をいったりきたり。
残った画像を背景に使う。
今回作った作品の一つに、
「ソメイ吉野太夫と千人行列」
「相編 ソメイ吉野太夫」

を出力したのでご覧いただきたい。

種類： 作品シート 題名： 写真 中村元世界 ソメイヨシノ太夫と千人行列 氏名： 中村元

TAKARABUNE 10：出入口

SMF

種類： 作品シート 題名： Wormhole RECORD_T57 (パフォーマンスアート) 氏名： 豊田祐一郎

TAKARABUNE 10：出入口

SMF

出口 | 入口
未知
みち
みち

種類： 作品シート 題名： 出口 | 入口 氏名： 藤井 香

TAKARABUNE10：出入口

SMF

種類： 作品シート 題名： 夢の入り口と出口 氏名： みやうか

TAKARABUNE 10：出入口

SMF

種類： 作品シート 題名： TAKARABUNE 10:出入口 ビジュアルイメージ 氏名： 中村 隆

TAKARABUNE10：出入口

SMF

迷い路

拙 出られない

もどき 拝

種類： 作品シート 題名： 迷路に ようこそ 氏名： 西尾 路子

TAKARABUNE 10:出入口

SMF

種類： 作品シート 題名： 舞踏 オオグツ 氏名： 舞踏サークル 舞ひ風 (細田麻央、ノトヤ浩一、菊野明、鏡子)

TAKARABUNE10：出入口

SMF

曲がったことのない角、
通ったことのない道、その先にごそ、
ずっと探し求めていた景色が見えるかもしれません。
あなたと未来を変える出入口…。
あなたも越えて「見ませんか」
アウェイに、一歩進んでみる。
自分の枠 (コンフォートゾーン) を超えよう。
異次元への挑戦。
未知へ挑み続ける。
いつもと違う選択技を選ぶことで、あなたの人生の角度が1° (一度)、変わります。
人生は、面白い。

※「TAKARABUNE展」も私にとっては毎回、エキサイティングなチャレンジです。

At a corner where I have never turned.
At the end of a road I have never passed,
I may be able to see the scenery I have been looking for.
A doorway that will change you and the future.
Why do not you try exceeding it?
I will take a step AWAY.
Let's go beyond your COMFORT ZONE.
Take on the challenges of another dimension.
Keep challenging the unknown.
By choosing unusual options, you change the angle of your life by 1° (one degrees).
Life is interesting.

※「The TAKARABUNE exhibition」 is evrytime an exciting challenge for me.

種類： 作品シート 題名： オーバー・ザ・コンフォートゾーン Over the COMFORT ZONE 氏名： はた みき Miki HATA

TAKARABUNE 10：出入口

SMF

私は小学校の教員をしています。
図画工作科の授業を通して、絵や立体に表わすことの楽しさを伝えることが私の使命です。
藤市美術連盟と連携した巨大アートの制作体験は、今回で3回目となりました。
本作品：巨大アートに挑戦！『私の夢、私たちの未来』は、4年生とひまわり学園の子供たち81名で描きました。
自分が将来どうありたいか…という夢の集合体は、私たちの未来です。
皆、思いを込めて生き生きと描きました。
子供たちが肩を寄せ合いながら大きな画用紙に絵を描く体験は、
お互いに認め合いながら絵を描くことの楽しさが体感できる活動です。
きっと、記憶に残る制作体験となったはずですよ。

図工の授業は、子供たちにとっての「アートの入口」なのです。

種類： 作品シート 題名： 巨大アートに挑戦！ 『私の夢、私たちの未来』 氏名： 矢花 俊樹 (藤市立中央東小学校4年生ひまわり学園：81名)

会場イベント記録

出展者同士また来場者と出展者のコミュニケーションを図り、アートの夢を共有し育むことが TAKARABUNEの重要な目的のひとつです。今回も会期中毎日のアーティストトークをはじめ、朗読、ワークショップ、各種パフォーマンスなどが、にぎやかに会場で開催され、さまざまな出会いや多くの発見の場となりました。(参加者・来場者総数: 計 509名)

開催イベント一覧(敬称略)

随時開催: 菱田祐一郎 プロジェクションパフォーマンス《Wormhole RECORD_T57》暗室ゾーン入口周辺他
暗室を中心にプロジェクターを持って移動しながらご来場の方々と楽しみました。5日間 計 98名

3月18日(水)

13:20~ 14:00 アーティストトーク(中村 元、社会芸術・さぎ山支部 野良の藝術、絵手紙浦和会、中村 隆) 5~ 25名
14:00~ 16:00 絵手紙浦和会《竹筆体験講座》講師: 鈴木啓子 参加 78名

3月19日(木)

13:20~ 14:00 アーティストトーク(みゃうか、suzu、絵手紙浦和会、はたみき) 12~ 13名
14:30~ 15:30 はたみき 工作ワークショップ《コンフォートゾーン BOX》参加 5名、見学 5名

3月20日(金・祝)

13:20~ 14:00 アーティストトーク(田 幸樹枝、出店久夫、絵手紙浦和会、菱田祐一郎) 13~ 18名
14:00~ 14:45 suzu 朗読《声がほどける午後》 15名

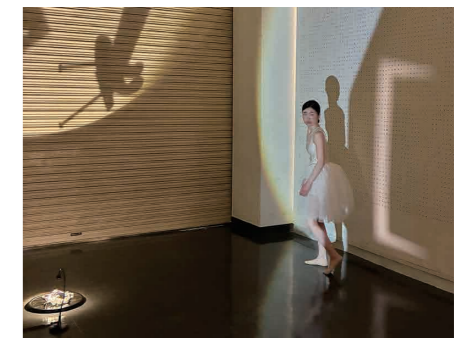
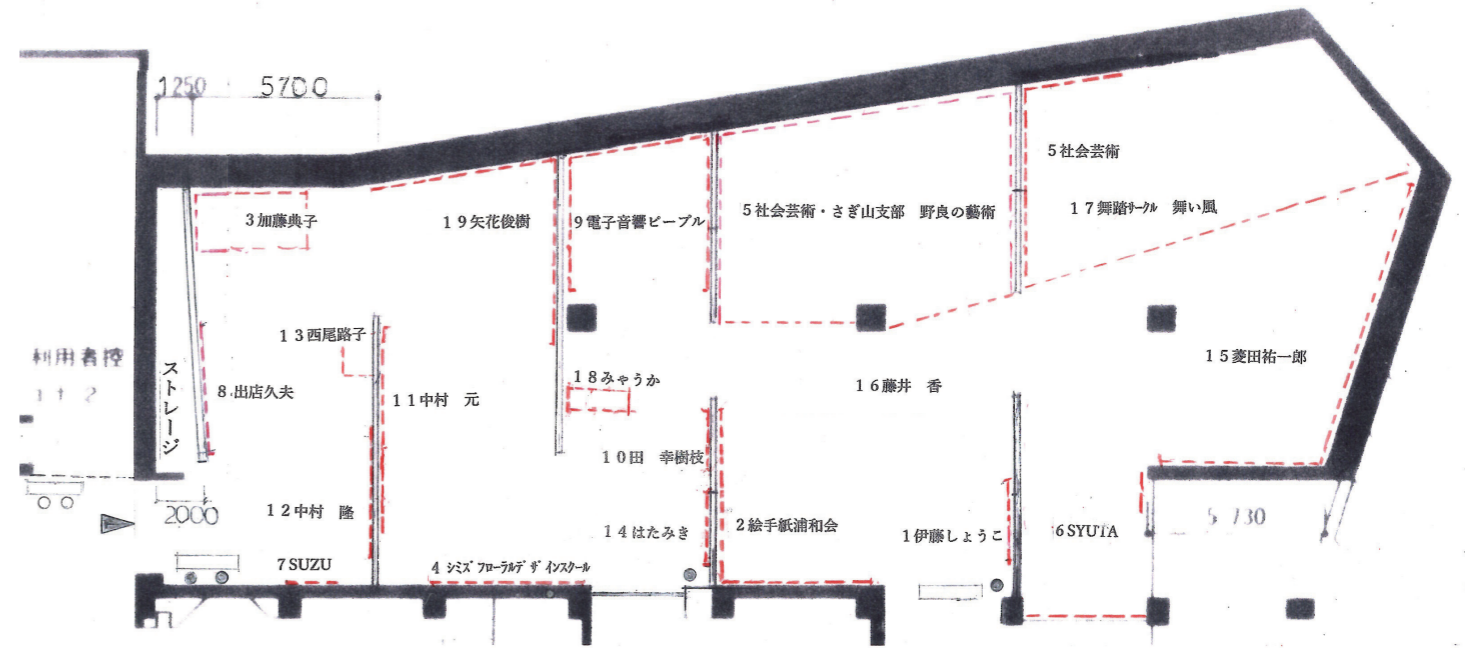
3月21日(土)

13:20~ 14:00 アーティストトーク(加藤典子、電子音響ピープルプロジェクト+東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」、シミズフローラルデザインスクール、社会芸術・さぎ山支部 野良の藝術) 8~ 30名
14:00~ 14:30 中村 元 江戸里神楽《寿獅子舞》+プロジェクション
コラボ: 菱田祐一郎 45名
15:00~ 15:50 伊藤しょうこ 一人演劇《Master Shoko & Margarita》 35名

3月22日(日)

11:00~ 11:45 田 幸樹枝 ワークショップ《ちぎる言葉で、ちぎる絵を描いて読む》参加 9名、見学 3名
12:20~ 13:00 アーティストトーク(矢花俊樹、社会芸術・さぎ山支部 野良の藝術、SYUTA、西尾路子) 10~ 15名
13:30~ 13:50 藤井 香 創作ダンス《出口|入口》出演: 江積志織、海保文江、佐々木春呼、松元日奈子 65名
14:00~ 14:30 舞踏サークル 舞ひ風(細田麻央、ノトヤ浩一、苅野 明、鶴子) 舞踏《オオゲツ》 50名

会場レイアウト



ご来場者アンケート 集計報告

2016年から新春に開催してきた「宝船展」は今回で通算10回目、コロナ禍による中断を経て2022年から毎年3月に「TAKARABUNE」として開催するようになり5回目となりました。来場者数は、2023年717名、2024年818名、2025年926名と毎年増加し、今回も946名と2年続きで最多記録を更新しました。

また来場者アンケート回答数も114通と最多で回答比率も12.1%と過去3年の8～10%に比べて大きく上昇しました。貴重なお声をお寄せいただいた皆様に改めて感謝し今後に生かしていきたいと思います。継続の甲斐あってか、リピーターや興味をお持ちいただける方が着実に増えているようです。以下集計に基づき項目別詳しくご報告します。

なお本稿の回答記述については、誤字・脱字と思われるものも原文のまま記述し、意味が判然としないものも排除せずに、そのまま記載することとしました。ご一読いただき、お気づきの点などありましたら、ぜひご教示ください。

A どちらにお住まいですか？（回答数112）

- さいたま市62（55.4％）：浦和区26、南区11、桜区6、北区4、中央区・緑区・見沼区各3、大宮区2、岩槻区1、不明3
- さいたま市以外の埼玉県28（25.0％）：越谷市・日高市各4、新座市3、上尾市・川越市・所沢市各2、桶川市・春日部市・鴻巣市・吉川町・蕨市各1、不明6
- 埼玉県外22（19.6％）：東京10（杉並・八王子各1含）、神奈川5（横浜1含）、静岡・名古屋各1、不明5

浦和区を中心にさいたま市内が55％、さいたま市以外の埼玉県内が25％とほぼ例年通りの比率だった。県外では、東京・神奈川以外に、静岡・名古屋など遠来の入場者もあった。

B ご年代を教えてください。（回答数113）

- 就学前・小学生10（8.8％）
- 中・高・大学生10（8.8％）
- 20代・30代9（8.0％）
- 40代・50代35（31.0％）
- 60才以上49（43.4％）

常に最多となる60才以上と2位の40代・50代を加えて約75％と例年（73～77）並みの結果だった。40代・50代の比率が今回はやや高かった。児童や学生・20代・30代は時間的余裕がなく来場が難しいとも思われるが、主たる来場者である子育てがひと段落した40代・50代や60才以上の方々に、アピールする企画で、家族を誘って来場していただくのも、ひとつの手かと思われる。

C この催しをどこでお知りになりましたか？（回答数116）

- 知人の紹介62（53.4％）
- SMFのホームページ5（4.3％）
- チラシを見た10（8.6％）

- YouTubeで見た1（0.9％）
- 知らなかった38（32.8％）

宣伝広告費のきわめて限られた本展にとって、出展者・関係者のネット、郵送、口コミ広報はきわめて重要であり知人の紹介が例年50％前半で首位となる。ついで知らなかったが20～35％で2位となるが、この層は美術館来館者数に比例して増減すると思われる。SNSを通じた発信の強化が課題だが、今回は出展者にアートの夢を語るショート動画を作成・提出してもらい、それを一本にまとめて会場並びにYouTubeで公開する試みを初めて行った。広報効果以上に新たな刺激となりコミュニケーションを活性化する契機となったと思われる。講習会の開催を含め、募集・編集・YouTubeアップにお骨折りいただいた菱田祐一郎さん、藤井 香さんに謝意を表したい。

D この会場に来られた目的を教えてください。（回答数121）

- 展覧会を見に55（45.5％）
- 知人の作品を見に41（33.9％）
- トーク、ダンス、ワークショップ等を目当てに1（0.8％）
- 特にない24（19.8％）

展覧会を見に、知人の作品を見に がいづも1,2位を争い合わせて80％台後半となることが多いが、今回は80％弱で、替わって例年10％前後の特にないの比率が高かった。美術館に来たついでに来場した層が例年より多かったためと思われる。

E 今年が10回目ですが、これまでにご覧になったことがありますか？（回答数112）

- 1～2回見た30（26.8％）
- 3～4回見た11（9.8％）
- ほぼ毎回見ている9（8.0％）
- 今回初めて見る62（55.4％）

初めて見るの比率は2023年の65％から24・25年は48％と減少してきた。今回は55％と増えてはいるが、ついで入場者の比率が高かったことの影響で、リピーターは少しずつ増えていると推定される。

F 会場のノートパソコン画面で出展者がそれぞれのアートの夢を語っています。（約9分）ご覧になりましたか？（回答数110）

- ひとまわり見た19（17.3％）
- 半分ほど見た10（9.1％）
- 少しだけ見た51（46.4％）
- 見なかった13（11.8％）
- 気付かなかった17（15.5％）

会場内2カ所にノートパソコンを設置し、動画を開場時間中リピート再生してご覧いただいた。4人に3人の方が気付いて足を止めていただき、9分まるごとご覧いただいた方も6人に1人いらっしやった。展示の邪魔にならないようにと音声は絞り気味で椅子も置いていなかったが、

それなりに見ていただけたようだ。

G Fで「見た」とお答えの方に伺います。この動画は展覧会や展示作品の理解に役立ちましたか？（回答数66）

- とても役立った12（18.2％）
- いくらか役立った28（42.4％）
- どちらともいえない20（30.3％）
- あまり役立たなかった1（1.5％）
- まったく役立たなかった5（7.6％）

いくらか役立った、とても役立った が計60.6％、あまり役立たなかった、まったく役立たなかったが計9.1％であった。Cで触れたように最初の試みとしては一定の成果があったと考えられよう。（あわせて次項Hをご参照ください）

H 上のFで「見た」とお答えの方に伺います。動画の中で気になったもの、ご感想など、ご自由にお書きください。

個別作品に関して（〔 〕内の数字は該当すると思われる作品番号）
・さわると音階のできるもの、木のはえているコラージュ（立体の創作過程が判りやすかった）[4]、又、入口で「宝船展」のコンセプトが判りやすかった [12]
／友人が行ったろうどく [7]
／ユニコーン [7]
／田さんの部分を見ました。ミステリアスで入口ってかんじでした [10]
／アルミフォイルのどугが おもしろそうだった [14]
／・ねこが「ばいばーい!」のところ [18]
一般的な感想、ご意見など。
・皆さんの心意気が伝わってきました
／その作品を作った理由が聞けてよかった
／日常にはないことに触れることが出来ました
／出展者の情報が事前にわかってよかったです
／なかなか哲学的な展示になっていたと感じました
／私が来た日 [22日]以外にやったものも面白そうだなと感じた
・もう少し目立つ所においた方がよい
／座って見られると良かった
／見たかったけど音楽が少し不気味であり見ませんでした
／作品全体を見るほうが良い

I 今回の展示をご覧になっていかがでしたか？（数字に○を、5は自由記述）（回答数101）

- とてもよかった42（41.6％）
- よかった57（56.4％）
- あまりよくなかった0
- よくなかった0
- その他2（2.0％）

1.「とてもよかった」回答者の自由記述（〔 〕内の数字は該当すると思われる作品番号）
・楽しく見られました。色々な展示があり、自由な発想や制作を感じられた
／一生懸命が伝わりました。小学生も応援したいです
／作品から自由を感じる。半面、作品という表現を「不自由」にも感じる。全てを表現する事は作品ではなく生きる事なのかも
／展示をされる上で説明書きがかかれています。作品について分かり

やすく見られました。またブースごとに、作品の雰囲気がそれぞれあり面白かったです
／自分でこの展示を見たいって思ったから
／とてもよかったです。ぜひ友だちにも伝えたいと思います
／じぶんの作品があったから [3]
・それぞれの絵手紙の作品がすばらしかった [2]
／分断と結合 リソラ 作品とカベの文章 [5]
／ユニコーン画家さん [7]
／田さんのメッセージ“深く調べてみるごと”に心を打たれました。短歌や詩がとてもステキです [10]
／・11、13
／西尾さんの作品がよかった [13]
／ダンス [16]、ポスター [12]

2.「よかった」回答者の自由記述（〔 〕内の数字は該当すると思われる作品番号）
・アートや今まで出会ったことのない作品をみられ、このような考え方もあることに勉強になりました
／生活、生きる、生きていることを感じられました
／入出口より入出口なのは・・・語感?（よかった）
・絵手紙展 [2]
／絵手紙 [2]、切り絵、写真等、それぞれ
／もっとひろい方が良くみえた 絵てがみ! [2]
／ダンボールの家の作品（小学生の） [3]
／これから工作をするときにダンボールで小学生がつくったのをまねしたい [3]
／自分の作品もあった [3]
／小学生の作品 [3、19]、絵手紙 [2]がとてもよかった
／自然と共生するアートが良かった 野良の芸術 [5]（よかった）
／小学生の大展示。[19]野良の芸術は参加してみたいと思った [5]

5.「その他」回答者の自由記述

・字が小さく読みづらい

J 特に印象に残った作品や応援したい夢などがありましたら、お教えてください。

一般的な感想、不明のものなど
・いくつか楽しめた作品があり、どれも良いと思う
／一般的な印象だが非日常性の中に自分を生きかえらせるヒントがあるように感じた
／やはり知人の作品が心をひかれました
／とても楽しい企画だと思います
／とくになり（どれもすばらしかった）
／空を浴びる
／sumica
／山口様
／鈴木様

印象に残った個別の作品についての感想、意見（〔 〕内の数字は該当すると思われる作品番号、普通数字は回答者記述）
・伊藤しょうこ さん [1]
／私は絵手紙を描いているので作品を見られて良かったです [2]
／友人の絵手紙、心にひびいた [2]
／絵手紙心にしました [2]
／絵手紙展 [2]
／今回は絵手紙を観に来ました。すばらしい字に感動しています [2]
／絵手紙展 [2]
／・2、9、19：小学生の大きな絵、絵手紙
／・2、7、14、18：今回のテーマに沿ってそれぞれの方が発表され、とても興味深かった
／子供達の作品 道の絵本が印象に残った [3]
／小学生の自由な発想表現に驚きました。海外の美術館にも行きますが、このような作品に触れることはありません。身近に色々な発見ができることに感謝です。

報道記録

東京新聞 2026年3月15日 彩の国情報ファイル 読売新聞 2026年3月20日 朝刊 埼玉版(右)

記事中「宝船展」は「TAKARABUNE10」、現代美術家の「菱田祐一郎」は「SYUTA(三友周太)」の誤り。ドアノブは正しくは「現地のギャラリーが行っていた、火事に遭った家の廃材で作品を創るチャリティ活動」(SYUTAが)参加して取得したものです。

また足を運びたいと思います。[3、19]
／フェルメールの「真じゅの耳かざりの少女」を模した作品 [3]
／赤松少年の作品に可能性を感じました [3]
／おもしろかった。赤松君すごい [3]
／・4、8、9
／・5
／野良の円球（竹？）僕にとってインパクト大でした [5]
／もの派っぽい大きな木を焼いた？こげた匂いのするものが迫力があって良かったです。[5]
ポスタービジュアルも鋭さがあって良いと思います。このビジュアルを見たので来ました!! [12]
／・7:ユニコーン 毎回絵を拝見し、背中を押してもらえます
／・7:ユニコーン画家suzuさん 入口と出口
／・7:ユニコーン 毎回絵を拝見し、背中を押してもらえます
／友人のsuzuちゃんを応援したい [7]
／・7、10、13 :色彩や発想に惹かれるものがあった
／・8
／・8
／・8、9
／画面をさわって音が出るやつ [9]
／・9:作る側と観る側を 実際に入ったりきたり、出たり入ったりするのがとても良いと思いました。
／・9 :色にメロディを、ドット描写に音階とリズムを、未来の楽器の可能性を感じました
／・9:初めての体験でした
／画面をさわって音が出るやつ [9]
／・9 :音楽を奏でる展示が、説明もして下さり楽しかったです。
／田さん [10] :子どもたちの合作もよかったです。 [19] 奥の映像もかっこよかったです。 [15]
／・10 :ステキでした
／パッチワーク、切り絵の作品を観て、表現する方々のすごいエネルギーを感じました
／中村元さんの写真 [11]
／・11:いつも楽しい作品、ありがとうございます
／・11
／・しまい [11]
／もう一回獅子舞と音楽とデジタルアートを。 [11、15]映像がなかったので映像を多くしてやってほしい

・12、13
／西尾さんの作品 [13]
／西路さんの虫シリーズ [13]
／・13
／ライトで箱の中を見る作品。おもしろそうと思い、少しワクワクする [14]
／・14、18
／・3 :15番のプロジェクターのものがたのしかった [15]
／プロジェクトンマッピングと電子音きょうべーブル [15、9]
／ダンス、ポスター [16、12]
／虹のブランコがよかった [18]
／・にじ色のブランコ [18]
／花屋さんになりたい（夢をかいていた作品） [19]
／・19: シンプルな作りの中にも様々な工夫がされていてすばらしいと思った
／子どもたちの描いた大きな紙の絵、全部を応援したい [19]

K SMF（サイタマミュージーズフォーラム）やその活動についてご存知でしたか？（回答数81）

- 活動に参加・協力した4（4.9％）
- 知っていた11（13.6％）
- 聞いたことがある5（6.2％）
- 知らなかった49（60.5％）
- よく分からない（14.8％）

L その他 TAKARABUNE 10 やSMFについてご意見ご感想、など、ご自由にお書きください。

・この企画は、まだまだ続けてほしい
／素晴らしい取り組みだと思います。今後もぜひ継続し



美術、建築、ダンスなど多彩なジャンルの活動成果を披露し合う「宝船展」がさいたま市浦和区の県立近代美術館で開催されている。22日まで。

同館元学芸員の中村蔵さん、建築家・三浦清史さん（ひらがら2013年に設立した「サイタマミュージーズフォーラム」主催し、16年に第1回が行われた。今年に第2回が行われた。今回のテーマは「出入口」として、次の10回も続けたい」と意欲を語る。
入場無料。午前10時～午後5時半。22日は午後3時まで）。

手に「なりたい」といった夢を色鮮やかに巨大な絵で表現。現代美術家の菱田祐一郎さん（88）は、昨年1月に米国・ロサンゼルス山の火事で焼けた家のドアノブを受け、影絵として壁に映し出した。

今年で開催10回目の節目を迎え、三浦さんは「自由な発想で発表する場として、次の10回も続けたい」と意欲を語る。
入場無料。午前10時～午後5時半。22日は午後3時まで）。

ていただきたいです。
／TAKARABUNE展は今10回目との事、おめでとうございます。どなたも参加出来、発表できる場が用意されているのは、とても素敵な事と思います
／これからも続けて下さい
／毎回すばらしくなって楽しみです
／ますますのレベルアップ目指して頑張ってください

・宝船、出入口とは とてもよいテーマ、表題です
／いつも大変お世話になっております。なかなか会合にも出れずで申し訳ありません。それぞれの出入口を堪能させていただきました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
・子供が作品をつくり見にきました。いろいろなことをチャレンジ、経験させたいと思ってます。本人も他の作品を見て目をキラキラさせていました。
／・(子どもの造形に)またさんかしたい
／・子供の作品は本当に自由で毎回すばらしい
／・ぜんぶとてもすばらしかったです。とくにダンボールの作品がとても心にのこりました。ありがとうございます。
／・どれもすばらしかったので、わたしも図工の時間にまねしたいです
・ふらりと来ましたが発見しました
／初めておとずれましたが楽しかったです
／一つ一つのことはよくわかりませんが、それでも楽しめたのでよかったですと思います
／たのしめました
／素敵でした
・また機会があれば見にきたいと思います
／来年もまた来てみたいと思っている。ありがとうございました。
／・又、来年も見に来たい
・ありがとうございました!!
／いつもありがとうございます
／いつもありがとうございます
／ありがとうございました。感謝です
・作品の説明文が小さすぎて主旨がわからない。大きな字で説明してほしい
／水曜からでなく、火曜からしてほしい
／影絵のランプはまぶしすぎた
／お友達同志で行らして見ることは、良くまたお話し合うことも分かります。もう少し声を小さくしていただけるとよかったです。

SMF 履歴書

■ 幼年期 (PRE SMF 時代)

- 2002年 ヒアシンスハウスをつくる会、発足
- 2004年 ヒアシンスハウス竣工
- 2006年 さいたまアート懇話会
- 2007年 さいたまアートフォーラム研究会

■ 少年期

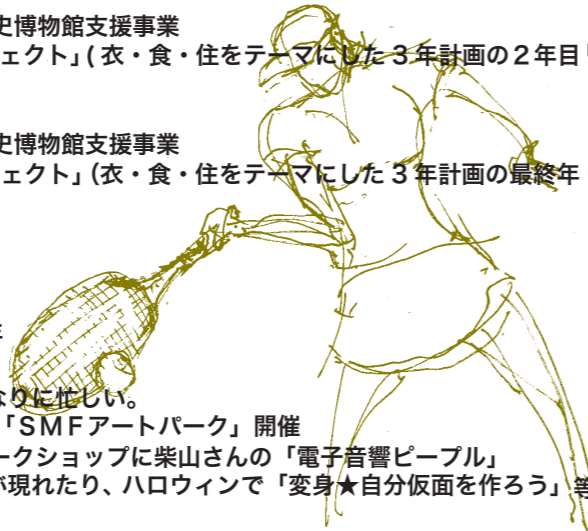
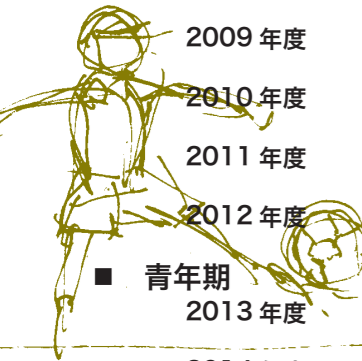
- 2008年度 SMF 発足
平成 20 年度 文化庁「芸術拠点形成事業」(ミュージアムタウン構想の推進)
LINK! ミュージアムからアートの風を!! 「風の記憶」…… アート竜巻フェスタ 2008
- 2009年度 平成 21 年度 文化庁「美術館・博物館活動基盤整備事業」
SMF アートのわっ! 「風の行方」…… あつまれアートのつむじ風 2009
- 2010年度 平成 22 年度 文化庁「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」
交差する風 織りなす場「風の軌跡」…… SMF アート楽座・アートバンク 2010
- 2011年度 平成 23 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)
Saitama Art Platform 形成準備事業「つながる Heart Art」
- 2012年度 平成 24 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)
Saitama Art Platform 形成準備事業「ひろがる」

■ 青年期

- 2013年度 SMF の組織化
(会則の作成、会員の会費による運営、フォーラムの開催とフォーラムの決議による運営)
- 2014年度 平成 26 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
あなたとどこでもアート「小さな家プロジェクト」(衣・食・住をテーマにした3年計画の初年「住」)
「アート長屋」建設
「アートのまつり」開催
- 2015年度 平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「着がわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした3年計画の2年目「衣」)
「アート長屋」入居開始
「宝船展 I」開催
- 2016年度 平成 28 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「おかわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした3年計画の最終年「食」)
「宝船展 II」開催
さいたまトリエンナーレ 2016 に参加
「SMF 学校」運営

■ 成年期

- 2017年度 組織化された SMF の自立した活動の初年
「宝船展 2018 @ MOMAS」開催
- 2018年度 親ばなれして自立しようとすれば、それなりに忙しい。
大宮アートフェスティバル 2018 で「SMF アートパーク」開催
入間市博物館では SYUTA さんのワークショップに柴山さんの「電子音響ピープル」
北浦和の商店街に光るきたうらわんが現れたり、ハロウィンで「変身★自分仮面を作ろう」等々々
「宝船展 2019 @ MOMAS」開催
- 2019年度 埼玉県立近代美術館「MOMAS のとびら」参加
「フワリつばさで鏡の国を飛んでみよう」
「美術館にぞうが遊びにきたぞう!」
「化石発掘★簡単鑄造で古代の生き物をつくろう!」
「きたうらわアートウィーク 花・花・花」(北浦和西口ハッピーロード・ふれあい通り) 参加
さいたま国際芸術祭 2020 公募プログラム「SMF 宝船展 2020」開催
宝船展 ON THE NET/ 宝船展 @雲をつかむ / 宝船展 @ MOMAS
(宝船展 @ MOMAS はコロナ禍による埼玉県立近代美術館閉館により残念ながら中止)
- 2020年度 令和 2 年度 オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業「SMF with コロナ」開催
アート寺子屋 / アート井戸端 / 宝船展@アート長屋
「宝船展@ MOMAS2021」(くもをつかむ) 開催
- 2021年度 令和 3 年度 オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業
「SMF アートコロニイプロジェクト-ヒアシンスハウス編」開催
埼玉県立近代美術館 MOMAS のとびらに協力
「和紙を貼って貼って○ランプ! □ランプ!」
入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力「身近なもので楽器(カホネレ)を作ろう!」
「宝船展@ MOMAS2022」(くもをたがやす) 開催
- 2022年度 入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力『ひみつのたまご』をつくろう!
令和 4 年度 社会とつながる文化芸術活動助成事業「アートの素・パントリー」開催
「TAKARABUNE 2023」(夢のかけらをくもにまく) 開催
- 2023年度 「TAKARABUNE 2024」(漕ぎ出したアートのまつり) 開催
- 2024年度 「TAKARABUNE 2025」(風のカタチ 空のキオク) 開催
連携ミュージアム合同会議開催
- 2025年度 第 2 回連携ミュージアム・SMF 合同ミーティング開催
「TAKARABUNE 2026」(TAKARABUNE10: 出入口) 開催



あとがき

■ カウンター席とテーブル席

近頃NHKのシリーズ番組『最深日本研究〜外国人博士の目〜』を観ていて「日本酒を知りたい」の回では思わず膝を打つところがありました。アルザス生まれの若い文化地理学者が出ていて日仏での外食の仕方の違いを語ったところです。フランスでは食事はテーブル席が原則で会話は食事をする仲間同士、テーブルという限られた範囲でのコミュニケーションに食事が支えられている。カウンターでの食事という形態は日本独自で、カウンター越しに料理人と客のコミュニケーションが成り立っている。

もっとも憧れのアメリカでもカウンターで食事をするドライブインレストランが映画やテレビで出てきます。(ただしぼくが憧れているのはケイリー・グラントのアメリカで決してランプのアメリカではありません)。

膝を叩いたのはホワイトキューブでの展覧会をフランス流のテーブル席とみるならば、TAKARABUNEはカウンター席もある日本の食事処かアメリカのドライブインレストランになるのではないかという喩えがまんざらではないなどひとり悦に入ったからです。

展示作品越しの制作者と鑑賞者とのコミュニケーションの場であるアーティストトークなどはまさに寿司屋のカウンター越しの会話の趣きがあります。そのカウンターは無地の尾州檜一枚ものには及ばなくとも、少なくともプリント合板ではなくいつかは漆塗りにしたいという気概で主催しているつもりです。

■ 内と内

アーティストトークも始めたばかりの数年前はまだ、団欒中のテーブル席を回るシェフの挨拶みたいなごちなさがあったものの、歳を重ね今ではすっかり定番に落ち着き、なじみ客と調理人が息の合った会話を交わすカウンター席の態になりました。

TAKARABUNEではもちろんプロのアーティストの展覧会もありますが、同時に、まったくの素人、はじめての人、なんちゃってアーティスト、日曜アーティスト、これからアートに興味をもってみようかなという人、だれでもが内に入り表現することができるアンデパンダンな展覧会です。もしかすると客席についてつもりがいつの間にかつけ台を越えて内側の調理場に立たされているかもしれません。

内の正字は「内」、門構えの出入口から入ったところが内だというのが原義なのでしょうが、当用漢字の制約かなにかから、そこに人がかかわれば内なる世界があらわれるといういかにもぼくらSMFの趣旨に相応しい「内」字を考えて下さった識者の方々に感謝しながら(向こうの世界で『お言葉ですが』の高島俊男さんの苦々しげな表情が目には浮かびはしますが)これであとがきの口上は終わりです。

裏表紙を閉じればTAKARABUNE 10から退出できますが、この出口はTAKARABUNE 2027へ、そしてSMF次の10年への入口にもなっています。なにしろ今回のテーマは出入口だったのですから。

三浦清史 (SMF代表、建築家)



TAKARABUNE 10「出入口」

会期: 2026年3月18日~3月22日
会場: 埼玉県立近代美術館 一般展示室1
主催: SMF (サイタミュースフォーラム)
会場レイアウト: 長野 恒
会場運営: 各出展者、ワーキンググループ、東京電機大学柴山研究室

TAKARABUNE 2026 (10)「出入口」ワーキンググループ

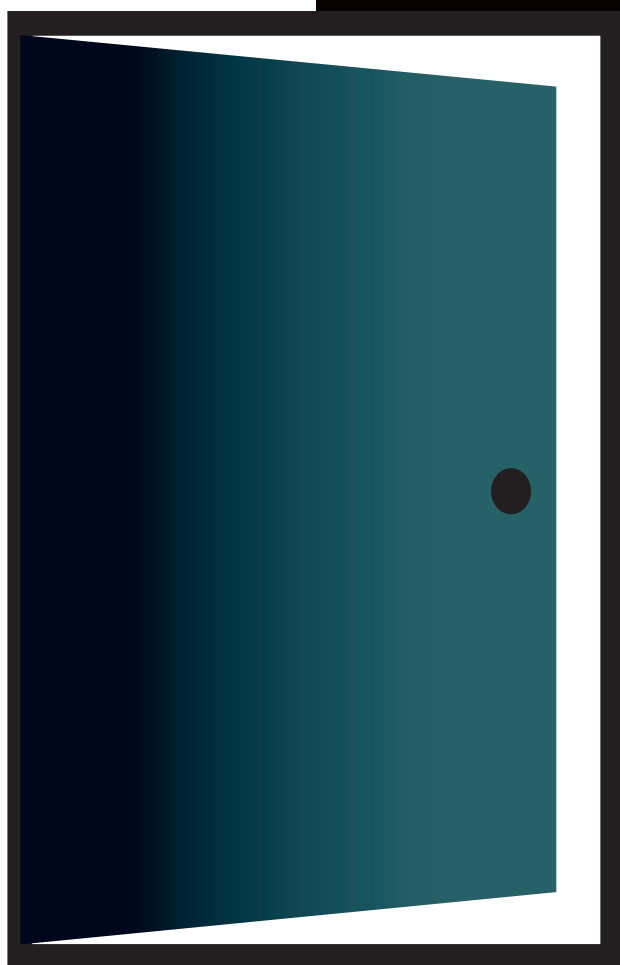
加藤典子、柴山拓郎、長野 恒、中村 隆、中村 誠、長谷川千賀子、春華未来、菱田祐一郎、藤井 香、三浦清史、三友周太、吉田富久一

TAKARABUNE 10「出入口」記録集

発行: SMF (サイタミュースフォーラム)
<https://www.artplatform.jp> (SMFホームページ)
<http://www.artnagaya.jp> (SMFアート長屋)

編集: 中村 誠、三浦清史
デザイン: 中村 隆
記録撮影: 中村 元
写真提供: 各出展者、中村 誠
2026年6月14日発行





<https://www.artplatform.jp>